第６回　予算決算委員会

令和５年８月25日（金） ５階　議場	開 会 ８ 時 ５ ７ 分 閉 会 １ ３ 時 ２ ２ 分

午前８時57分　開会

○委員長（奥村一仁君）

それでは、令和５年第６回予算決算委員会、事業評価を開会いたします。

よろしくお願いいたします。

○委員長（奥村一仁君）

それでは、まず、①移住定住発信事業について協議していただきたいと思います。

まず、高評価の方のご意見を伺いたいと思います。

榛葉委員が90点の高評価をしておられますので、榛葉委員、評価理由、特に効率性、成果で35点で満点をつけておられますので、そのあたりを含めてよろしくお願いいたします。

○13番（榛葉利広君）

私の印象としては、ポータルサイトができたりして、結構予算を使ったのかなという印象でしたけど、実際には割と予算も抑えられて、問い合わせは結構増えとるというところがありましたので、その点については評価したいなというふうに思います。

あくまでもこれは情報の発信事業ですので、その後に移住定住の施策が入ってくるわけですので、発信に関しては非常に効果があったと言わざるを得ないかなという評価です。

ただこれが現状は、その実際の移住定住にははっきりとした結果が出てないということがあるので、更にその問い合わせを増やして、実際の成果に出てくるといいかなとは思いますが、現状発信事業自体に関しては非常に高い評価を出しました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

続きまして、36点でＢ評価の成瀬委員。効率性が７点となっておりますが、そのあたり含めて、評価理由を教えていただきたいと思います。お願いします。

○12番（成瀬徳夫君）

ここに書いてありますけど、事業目標が的確じゃないということが一つありました。やっぱり事業目標をきちっとした形でやらなければ駄目だよということでございます。

情報発信はまあ、今、効果的に進める施策が必要であると私は思うんだけども、もう少し具体的にきちっとした形でやっていくべきじゃないのかなということで、非常に事業目標に対しての数値も少ないということで、低い点数にいたしました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ちょっと小木曽委員にお伺いしたいんですが、目標指標がゼロ点となっておりますので、そこの評価理由をちょっと教えていただきたいと思います。お願いします。

○11番（小木曽光佐子君）

これね、効率は良くなってると思うんですけど、目標指標としては、ここにも書いたんですけど、移住人口の増加を目指しているっていうのが目標なので、指標は人数や世帯数などをしっかり表したほうがいいんじゃないかなと思ったので、これは良くないなということでゼロ点にしました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

そのほか、ご自由に意見を言いたいという方は挙手でお願いします。

12番　成瀬徳夫君。

○12番（成瀬徳夫君）

ちょっと言い忘れたんだけども、相談件数を目標数値の実績にしてるんでね、ここは。今回の場合。これじゃあ、とても移住定住の目標数値じゃないじゃないかと私は思うんですよ。

だから、移住定住に実際に目標を何名ぐらい来ていただきたいなという目標を挙げていって、それに対してのやっぱり評価をするのが本当かなと私は思っておりますので、そういうことも鑑みながら、非常に低い点数にいたしました。

○委員長（奥村一仁君）

４番　棚町　潤君。

○４番（棚町　潤君）

確かに僕も目標数値についてちょっと違和感があるというところなんですけど、ポータルサイトだったりＳＮＳを利用しているのにも関わらず、アナログの電話での相談受付の件数だけ勘定しとるというのは、ちょっと違和感がありまして、それなら、例えばポータルサイトへのアクセスの解析をするだとか、ＳＮＳのいいねだとか、数字的にもうぱっと出るものがあると思うんですけど、そういったものを目標にされたほうがいいんじゃないのかなというところで、目標についてはちょっと再設定する必要があるのではないかなというのが私の意見です。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

14番　熊谷隆男君。

○14番（熊谷隆男君）

僕も目標指標の表し方、この事業評価調書での説明が、何となくどこかから持ってきたような言葉であるけども、移住定住情報発信は主体性、主体を担うのが市でないとやれないと、全体を見渡

すのにね。

実施主体と必要性については、やっぱり大きく担ってもらわなきゃいかんなということが大きくて、成果や何かというのも、何を成果として言うのかといえば、いろんな人が大勢来てくれると、相談に来てくれるということが実質的に移住定住者の数字に結びつくということの起点のことであるので、点数がみんな一律、どのやつの評価も同じようにしないかんのやけど、もうちょっと期待感で言えば、もっと主体的なイメージというのは強くてもいいんではないかなと。

もっと主導してやっていただかないと、何が言いたいかというと、つい、委託、委託になって、例えば、情報発信するに至っても民間のあれをっていうこともあるかもしれんけど、やっぱり市が一番把握しているので、実態を。地域も把握しとるし。

そういう意味では、情報発信全体としては大きく担っていただきたいということで、その点でいうと、今では担っていないのではないかとか、主体性を担うのはどこが、市が担いますということはもちろんですけども、それを現状でいいのかということの評価がなかなかしにくいので、そこのことが言いたいなと思うところです。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

５番　柴田幸一郎君。

○５番（柴田幸一郎君）

目標指数のことではないんですが、ちょっとこれは本人がおらんのに言っていいか分からんのですけど、犬塚委員のコメントで、判断に至った理由というのが、「若者が住みたいと思う若い夫婦を支援する施設にしないといけない」と。これちょっと事業のこの評価が分かっていないかなと思って、これはちょっと作り直したほうがいいんじゃないかなと思っております。お願いします。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

その１件は犬塚委員に。

○５番（柴田幸一郎君）

これ、犬塚委員にはちょっと直して、ちょっと分かっていただかなあかんかなと思っています。

○委員長（奥村一仁君）

お伝えしておきます。

ほかはいかがですか。

私からも一つ。僕も榛葉委員に続いて高評価でしたが、目標指標のところだけ皆さんと同じようにちょっと違和感がありまして、目標指標というか、そもそものこの目的と目標が逆なんじゃないかというふうにちょっと考えました。

目的というのやっぱり最終的に到達するところだと思うんですけど、目的がきっかけ作りということが書いてあって、その目的に至るまでの指標のところに、移住定住の人口増というふうに書いてあったと思うんですけど、書いてあるんですけど、もうそこって、そもそも逆で、きっかけを作

るのが目標で、目的が人口増、移住人口の増加なんじゃないかというふうに、その辺にちょっと違和感を覚えたので、そこは５点としました。

皆さんから意見が多かったこの目標指標のところについては、最終的にまとめるときに、ご意見が多かったということは、市長提出のときには記載しようと思ってます。

そしたら、その目標を、例えばどういったものにしたらいいかというご提案がありましたら、ご意見をいただきたいと思います。先ほど、棚町委員から少しご意見いただきましたけれども、ほかにありましたらお願いします。

９番　渡邉康弘君。

○９番（渡邉康弘君）

私も棚町委員と同じようなところもあるんですが、今後を見据えて目標値と移住定住の相談人口から、実際の移住定住人口と世帯数等に変更していくことを検討いただきたいということを書いてあります。

目標指数でなくてもいいんですが、評価基準の中で言われた相談件数、ＳＮＳのアクセス数、また出店数なども含めて総合的に評価していただきたいということで、このような評価をしておりますので、また参考にしていただければと思います。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、ご意見出尽くしたようですので、次に進めたいと思います。

次に、12番　成瀬徳夫君。

○12番（成瀬徳夫君）

今、移住定住をやってるんだけど、平均点の横に最終評価というのが出てるんだけど、ここで最終評価を決めていくの。どうするの、これ。一覧表の中に、平均点が出てるんだよね。今の移住定住については。Ｃ評価の66.4点で、その右側のほうに最終評価という評価があるんだけど、ここで今日決めていくんですか、どうするんですか。

○委員長（奥村一仁君）

基本的にこれは平均点で皆さんからいただいたものなので、これはこれで確定ですが、この議論を経て修正が可能ですので。

○12番（成瀬徳夫君）

事業ごとに決めてやっていくのか、全部終わってしまってからやっていくのかとか。

○委員長（奥村一仁君）

事務局に報告していただいて、修正するということを言っていただければ、それを反映したものをまた皆さんに配付します。

○14番（熊谷隆男君）

議会が始まって、決算認定のところで事業評価と。そのときには、今なされたものが出とって、これでいいかを確認するということ。これで異議があったら、まだ変更がきくということ。

○委員長（奥村一仁君）

９月11日の事業評価については、市長提出のものについて皆さんにご意見をいただくこととしたいと思いますので、最終の変更期限は、スケジュールのところにあります８月29日（火）が事業評価シート変更の提出期限となっておりますので、今日議論したものの変更については、８月29日までとします。

その後、まとめまして、市長提出のものを作成しますので、市長提出分について９月11日に議論していただくという。

○14番（熊谷隆男君）

この市長に提出するやつというのは、何の文言もなしに、点数表だけを渡すということか、多様な意見を付記して出すということか。この表も出すと思うけども、極端に良い人と悪い人があって、こういうふうでこの人はとしか読み取れるのか。これは何でこうかということも伝えるために、文章的に書いて出すのかという。

さっき、柴田幸一郎委員が言ったように、犬塚委員は見えんけども、全然勘違いでこの点数だよということも伝わらないと思うんやな。この点数というものがね。それでも総体は平均で出ちゃうということだけを伝えるのか。

この中には、物すごく良いと評価した意見もあれば、そうじゃなくて、全く違う意見もあるっていうことを伝えないと、何となく点数だけを見て、まあまあやなと。Ｃ評価とＢ評価にしか大体ならんのやから。

これだけを見られたら、全く意味がないんじゃないかとは俺は思うんやけど。

○委員長（奥村一仁君）

基本的には評価のこのＡＢＣＤの数字と点数と、あとは文章で出します。文章の中には、熊谷委員がおっしゃるとおりで、良いことばっかり書いててもしょうがないというか、平均というのはやっぱり真ん中の意見になっちゃいますので、当然、点数が上のほうの意見も、点数が下のほうの意見も取り入れながらまとめたいと思います。

まとめたものを見ていただいて、やっぱり、下のほうの意見が余り反映されてないんじゃないかとか、そういうご意見があれば、またいただいて修正して提出するというふうに。

○14番（熊谷隆男君）

それを11日にやるということ。

○委員長（奥村一仁君）

そういうことです。

○14番（熊谷隆男君）

またそれを修正して、皆さんに見せるわけかね。

○委員長（奥村一仁君）

Dropboxに入れて確認してくださいということになると思いますけど。

そういう形で進めたいと思ってますので、よろしくお願いします。

○14番（熊谷隆男君）

分かりました。

○委員長（奥村一仁君）

次に、②夢づくり市民活動補助事業についてです。

一番得点が高かったのは樋田委員ですが、樋田委員ちょっとこれから幾つか出番が、当てる機会がありますので、ちょっと今回は同じくＣ評価の熊谷委員にご意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○14番（熊谷隆男君）

一番最初に夢づくり地域交付金というのは地域支援というか、民間支援というものが形を変えて出てきたんやなと。市民活動を支援するんだということで、まだ周知もなかなかされてないと。

市内在住で、５人以上で、市民であって営利目的でない団体というようなことやったと思うんやけども、そのこと自体が周知がされてないけども、やっぱりそういう支援は大事だなということを思って、先日、山口市に行ったときに、やっぱり地域を起こすのには、支援の意味でも大事ではないかなと。

まちづくり組織を支援するという意味ではなくて、まちづくりに対する意識をやるのには必要ではないかと。

どちらかといえば、こういう方法でしかないかなというのが思うところで、これから発展するという期待を込めての点数であります。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

続いて、低評価の方のご意見を伺いたいと思います。渡邉委員が36点でＤ評価となってます。成果が７点でちょっと低い評価をしていただいておりますので、そのあたりも含めてご意見をいただきたいと思います。

渡邉委員、お願いします。

○９番（渡邉康弘君）

事業自体は必要なものだと感じてはいるんですけど、補助を出している団体が固定化してきてる感じがあるというところで、市内の施設、各種団体としっかりと協力して支援する市民団体の把握に努めてもらいたいと。

より多くの方に効率的に高い事業となって努めてほしいということで、こうなってます。

ただ公共性の高い事業となると思いますので、しっかりと把握して、より活用しやすい事業ということになっていけば、成果も上がってくると思っておりますので、そういったような所感をさせていただきました。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

続いて、福永委員。目標指標がゼロ点ということでD評価をいただいてますので、そのあたり、ご意見あれば伺いたいと思います。

○１番（福永泰子君）

これは目標に対して、実績を決めてみえるということなのかなというのはあったんですが、これは目標を毎年考えてらっしゃるはずなんですが、令和２年度のときに目標、平成30年のときに目標が７に対して実績６だったので、令和元年に９にしたのかなっていうところは読み取れるんですけど、そのときに実績が５であったにも関わらず、次の年も９で、また３ということで、これ多分コロナとかということも関係してるかなと思うんですが、それを鑑みても、それは予測できたことであるにも関わらず、目標数値を下げずにずっと設定されてました。

その目標を達成するために、特段何か手だてをしたかということのあれが、成果が見受けられなかったので、この目標数値の設定の仕方は本当に正しかったのかということに対して妥当性が感じられないという評価をさせていただきました。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございました。

それでは、何かほかにご意見がある方は挙手でお願いします。

12番　成瀬徳夫君。

○12番（成瀬徳夫君）

問題の課題の中に、「新規も含めて活用団体を増やすことは課題です」ということが書いてあるにも関わらず、次年度の方向性が現状で継続ということになっちゃってるんだけど、実際にもう少し具体的な形で前へ進めてもらわないと、もし再度これ評価した場合も同じ結果になると私は思いますので、その辺をちょっと明記してもらいたいなと私は思ってます。

○委員長（奥村一仁君）

８番　樋田翔太君。

○８番（樋田翔太君）

私も成瀬委員と同じようなところなんですけども、ほかの団体で伴走型補助というか、団体が行いたいことを一緒になって企画していくようなところもありますので、これはもうそもそも団体が少ない、活動者がいないということが課題であれば、そちらにシフトしていかないと、これ同じことを毎回書くことになると僕も思いました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

14番　熊谷隆男君。

○14番（熊谷隆男君）

さっきちょっと福永委員が言ったとおり、これ補助やから自分ところも金出して補助もらうとい

うことになると、今、樋田委員や福永委員は増えないと、増えないわけですよ。これ、きっと申請した人がみんな受かっとるわけよね。受かっとるということはないけど、既存のとこばっかりやから。

ということは、幾ら毎回やっても、毎回同じことになってくるというのが読めるところで、本来で言えば、市民団体が増えることというのが事業目標にあるんやけど、目標値の実績だけを見ると、９とか10とかということだけで、全体の予算の中で大体こんなもんやろうぐらいで出した目標で、出せる金額を逆算して作っとらへんかという目標に見えるわけよね。

100でも1,000でもいいわけやけども、そんなこと書くわけがないわけ。そんなこと金が続かんのやから。

こういうことでいくと、やっぱりこの実績というところを上げるということを書いとるけども、本当にそれはあるか。いろんなところを見ると、やっぱり市民団体とかＮＰＯだとかいろんな活動してるところの地域は多いんやね。瑞浪はそれで少ないということが根本的にはあれやから、そういうものを育てるということも補助の一つではないかなという。

市長に言っとってください。

○委員長（奥村一仁君）

16番　柴田増三君。

○16番（柴田増三君）

僕は中間的な評価をしとるわけやけども、これ基本的に僕らもいろんなＮＰＯ活動してるわけですけれども、限度額50万円もらえるよね。そやけど、その目標設定のところが、10万円とかそういうことを考えると、いかにも件数で割ってたら、１個の補助する金額というのはめちゃくちゃ小さいんや。

大体20万円とかそこらもらえればいいのかなという感覚がするんやけど、50万円なら50万円、限度額があるとすると、僕らはみんな50万円までもらえるような事業を作るんやけど、この形の中やと、本当そういった魅力がないのかなということで、まず応募はしとらんやけど、ほかのところの県の事業とかいろんな事業があるので、そういうとこ使わせていただいてるんやけど。

やっとること自体は、中京なりいろいろ同じような団体が取って見えるんやけど、あそこの瑞浪芸術館かな。あそこもいろんな講演とかで使ってみえるけど、大体１回使うと同じような団体が使ってみえるのかなということで、発想というか新しい事業を起こしていくという感覚がなかなか受け取れんなという気がしました。

一応評価としてはＣ評価ということで、中間的なところですけども。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

４番　棚町　潤君。

○４番（棚町　潤君）

この事業は、公共的な事業を行っていただける市民団体を増やすことを目的としているんですけど、これ見てると、補助対象となっている団体さんは今までにももらっているような、公共性がある団体であって、ある程度、会計もしっかりしてたり、規約もちゃんとしてたりというところが多いと思うんです。なので、何となくしっかりとした団体しかもらえないというような雰囲気があるなと思ってます。

とはいえ、新しいことをやる市民団体というのは、実は数人の人が集まって新しい思いつきでこういうことやろうと思って動き出す団体が多いわけであって、そういったときに、なかなかそういう新しい団体を支援できるような体制ではないのかなというのをちょっとこの補助制度の内容を見て思っちゃうんですね。

補助率が２分の１だったり、50万円上限というのも、ある程度、気軽に市民団体が活躍するには、ちょっとハードルが高いのかなというふうに思っておるところなんで、僕はこれを書かせてもらいましたけど、やっぱりさっき樋田委員もおっしゃいましたけど、やっぱ団体を作る支援のほうにお金を振ったほうがいいんじゃないのかなというのをちょっと思ってます。

なので、この制度自体は優れた制度だとは思うんですけど、もう少し幅を広げて、伴走型支援という、ああいうのにやっぱり力を注いでいくというのも、可能性を広げる、目的を達成できることにつながるんじゃないかなと思います。

○委員長（奥村一仁君）

14番　熊谷隆男君。

○14番（熊谷隆男君）

51点でさ、平均が。ちょっと気が変わればD評価になるところなわけ。ここは意見を皆さんいろいろ聞いて、こうやで、しつこくやれとは言わんけども、気が変わると、一番微妙なところの点数のところなわけよね。端境の。もっといろんな意見を多様に聞いてもらうといいかなと。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

９番　渡邉康弘君。

○９番（渡邉康弘君）

私、先ほど下の目標指標とかそちらのほうで説明しましたけど、ちょっと上の部分のところで、熊谷委員と棚町委員、樋田委員とかの指摘もあったんですが、実際、ニーズに合ってないから同じような団体しか来ないのかなというところで、サービス、事業としては必要ですけど、限度額、実績がどんどん減ってるんで、限度額を減らすなりして、その代わり、補助率を上げるとか、また、より門戸を広くする。

50万円のほうは今までどおりあるけど、その半分の25万円だけど、もっと人数が少なかったりとか、補助率があって新規の人にも取り組みやすいような事業にするとか、そういったところで、受け入れる体制をもっと柔軟に対応していけば、より良い事業になっていくんじゃないかなと感じております。

○委員長（奥村一仁君）

15番　加藤輔之君。

○15番（加藤輔之君）

市内にはいろんな団体がたくさんあって、特にボランティア団体も多いわけで、ボランティアといえども広域性が非常に高い。そのために一生懸命頑張っておられるということで、自己資金というのがほとんどないと、どこも。

だから申し込もうと思っても、そういう点で非常に大きな障害があるということをすごく思います。それで、一応、ボランティアの補助として年間３万円ぐらいもらっておるんだけど、そういう団体をもっと育てる。それから、補助率50％というのがやっぱりネックになってると思うので、どうしてもＪＣや学校法人になっちゃうなというふうに思いますので、その辺をやっぱり変えていく必要があるというふうに思います。

以上。

○委員長（奥村一仁君）

12番　成瀬徳夫君。

○12番（成瀬徳夫君）

申し訳ございません。やはりこれ、目標数値に対して予算も少な過ぎるんじゃない。そんな話が出てたんだけど、目標数値10に対して100万円じゃ全然足りないんじゃないの、これ。

そうすれば、やっぱりそういう団体はそれに乗ろうという気にはならないと思うけど、それが１件50万円とかになれば変わってくると思うんだけど。

それはやはり、この予算的にちょっとこれは厳しい数字じゃないのかな、そんな気がします。

○委員長（奥村一仁君）

13番　榛葉利広君。

○13番（榛葉利広君）

これ交付要綱なんかを見てみると、同一事業に対する補助金の交付回数が３回なんですよね。ただこれ事業によっては、発足期と継続期と発展期みたいな、なんかそういう時期が多分あるような気がするので、金額とか予算等をちょっと変えるような形で、ほかの市でもそういう形のものがあったような気がしたので、そういうのも一つ考えていただいてもいいのかなという意見を。私の評価のところにも書いておきましたけども、そういうこともいいかなと思います。

それから、地域計画が今年、今始まってもう既にやっとるところもありますので、そういう活動が活発になってくると、そういう団体もどんどん出てくるような気がするので、金額的な面、それから、回数はちょっと分からないですけど、そのときの状況によって変える工夫が必要かなという提案をさせてもらいます。

○委員長（奥村一仁君）

ほかにいかがでしょうか。

７番　辻　正之君。

○７番（辻　正之君）

この事業ですけども、５人以上というグループがそれぞれの地域にあると思うんですが、やはりこの制度を利用しようという場合に、非常に審査が厳しいと。

例えば、全体が何人か人を集めた中で、プレゼンといいますか、スクリーンに自分たちの活動内容を全部映写して、そして、説明をした後にもらう金額が１万円とか２万円とかいう、苗代とかそういうものの関係をやってる方も見えると思うんですけど、そういうものを補助金をいただくために、そこまでいろいろハードルを高いところを設定されていますと、なかなかそれをやらんでも自分たちで出してやればいいわというふうに、利用する人が非常に少なくなると思います。

例えば、プレゼンテーションをやらなくても、ちょっと書類を提出して審査していただくとか、そういうハードルをある程度下げたらどうかなと思うんですが、そういうようなことがやっぱり必要じゃないかというふうに思います。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

11番　小木曽光佐子君。

○11番（小木曽光佐子君）

あのときの説明で、市内の市民団体を余り把握していないというようなこと言われたと思うんですけど、結局は今、皆さんがおっしゃるように、市民団体そのものが減ってるのか、補助金がなくても実費でできるので申請しないのか。２分の１だからできないのかというところを、ここにも書きましたけれど、その辺のところをもうちょっと明確に確認することが必要じゃないかなというふうに私は思いましたので、Ｃ評価にしましたけど。

まずは、団体数を把握してないというのがちょっと良くないなというのだけは付け加えておいてほしいなと思います。

○委員長（奥村一仁君）

ほかはいかがでしょうか。

１番　福永泰子君。

○１番（福永泰子君）

先ほどの辻委員のお話を聞いて思ったんですけど、プレゼンするのに苦労が伴うので、書類だけにしたらどうかっていう話もありましたけど、それに関して、やっぱり金額が大きいのであれば、逆に、あれなんですけど、その金額ごとに、先ほど榛葉委員は補足期と継続期と発展期というふうにおっしゃってましたけど、それも含めた今度、金額に合わせて申請する仕方も変えるということも必要かなと。

金額が少ないのに、プレゼンとかにすごい力を注がないといけないとなると、それを作るだけですごい、金額この程度だなとなるのであれば、金額に合わせた申請の仕方ということも細かく設定していけば、もう少し利用者が増えるのかなということも思いました。

○委員長（奥村一仁君）

ほか、いかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、ご意見が出尽くしたようですので、次に進みます。

○委員長（奥村一仁君）

次に、③預かり保育等給付事業です。

一番評価が高いのが樋田委員の86点ということです。目標指標が10点満点、効率性35点の満点で高評価しておられますので、そのあたりを含めて、よろしくお願いいたします。

○８番（樋田翔太君）

評価に書かせていただきましたけども、必要なことである。ただ周知がまだ甘いのと、これからもう少し利用が促進されればなというふうに思いました。

ただ、市がやっていく必要はありますし、だから成果のところを探させていただいて、あとのところは高い点をつけさせていただきました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

続いて、小木曽委員、Ｂ評価、43点ということです。目標指標がゼロ点ということになってますので、それを含めて。

○11番（小木曽光佐子君）

私はこの事業を市がやるべきかというところから入っているので、これは民間ＮＰＯとかそういったところに出したほうがやりやすいんではないかなと思ったので、この事業そのものを市がやらなくていいという考えでＢという評価にさせていただきました。

今、使い勝手が悪いというのがすごくあるので、手放したほうがいいんじゃないかなと思う事業であるということです。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

それでは、ほかにご意見あれば、よろしくお願いします。

13番　榛葉利広君。

○13番（榛葉利広君）

この事業は負担割合は４分の１が市にありますけれども、これ国の事業やったと思いますけど、間違っとったらごめんなさい。国の事業であるので、ちょっと評価がしにくいなと思ったんですけど。

あと皆さんこれ、割と書いてあるんですけども、目標値が出せないというのが、ちょっとよく私も理解しにくいなと思った点がありました。

この保育に関する問題に関しては、病児・病後児保育とか、保護者が本当に困ったときに使える

ような制度設計と人員の確保が一番大変だと思うんですけど、そこら辺をしっかり問題をクリアして行っていただきたい。評価としてはC評価ですけども、よろしくお願いいたします。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

５番　柴田幸一郎君。

○５番（柴田幸一郎君）

今回、この目標指標を10点満点に入れた方にお聞きしたい。目標が達成もないというのに、目標指標が10点というのはどういうふうな感覚でやられたのだろうか。

先ほど樋田委員が話されたので、今度は奥村委員長に個別に聞きたいです。

ゼロ点はまだ分かります。10点のほうが分からない。

○委員長（奥村一仁君）

これ僕が10点に評価した理由は、確かに皆さんおっしゃるとおり、ゼロ点の方は多分同じく、目標のそもそも数値が設定されてないということが疑問だったということだったと思うんですけど、僕が担当課の説明を聞いてる中で、この事業というのは退職後にも、目標のところにありますけど、対象者に対して適切に給付を行う事業であるというふうに説明があったので、そもそもこれぐらいの見込みがあって、これぐらいの目標ですというのがちょっとそもそも立てられなくて、利用したいというふうに申し出があったときに発生するというか、そういうものだというふうに説明を受けてたので、これは申し出があった方に直接給付、全部、全額されているのであれば、これは適切と判断するしかないかなという考えで、10点と評価しました。

樋田委員、何か補足あればお願いします。

８番　樋田翔太君。

○８番（樋田翔太君）

それこそ必要に迫られなかったらしないわけで、それに数値を別に立てる必要がないと僕も思いますし、困ったときに頼れる場所があるということを確保するということがやっぱり必要なことだと思いますので、そういうことで、別にそこで点を減らす必要はないかなと思って、評価しました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

９番　渡邉康弘君。

○９番（渡邉康弘君）

今の話、対象となる方が給付する事業なので、代表として必要がある方への給付率とかそういうところであれば、ほぼ100％になるかとは思うんですけど、例えば、何らかの問題があったりとか、九十何％とか、そういうふうになる確率があるので、そういったところを目標にしても、そういう評価ができるんではないかなと思いますので、そういったところを検討いただければというところで。

本当に100、届けるべき給付なので、それがなぜ届けてないかなというところも、そういったと

ころ目標に立てれば評価できるかと思いますので、そういうふうにちょっと今の意見を聞いて思いましたので、つけさせていただきます。

○委員長（奥村一仁君）

先に、14番　熊谷隆男君。

○14番（熊谷隆男君）

榛葉委員も言ったけど、これ国の施策で、元を言えば、人口減少の問題になるわけです。これ地域の人口減少でいうと、瑞浪市が育てやすい環境にあるよということを伝えるべきことでもあるので、これどこの市でもやっとるわけのことで、比較しにくいわけやけども、やっぱり周知をするということが、先ほど、今までの事業も全てそうやけど、もっと活用を促進しないと良くないんではないかなということだけは思うので。

申請すればもらえるんやから、国が半分も持ってくれるんやから、どんどん市民の人に伝えるということを、この９事業の中にはないかもしれんけども、これを補佐するような活動をせないかんのではないかなという。合わせ技にしないと、これ伸びないやないかなということを思います。

この今の実態の中では、与えられたもの、９対象には対応しとるんやから、これの事業のほかにもう一つこれを増やす体制が必要ではないかなということは、この事業の中でそれはきっと周知する費用は認められへんのやから、そういう意味では、そこまで補助しないと活用が促進しないということは消してほしいと思う。

○委員長（奥村一仁君）

９番　渡邉康弘君。

○９番（渡邉康弘君）

まず基本的には給付事業なので100分の100といくと思うんですけど、本当に対象になる可能性がある人たちとか、その申請をすれば給付というところで、もっとそれをちゃんと受けられる人が増えていくことが必要なので、今、給付事業はちょっと難しいんじゃないかという指摘もあったので、そういったところで、熊谷委員が言われるような事業があってもいいのではないかなと私も思いましたので、ちょっとさっきの点は少し修正させていただいて、そういった思いでということで理解していただければと思います。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

４番　棚町　潤君。

○４番（棚町　潤君）

今、目標についていろんな話が出てると思うんですけど、僕これ目標、設定できるんじゃないかなというふうに普通に思ってるんですけど、今回も新しい幼児園を設立して、預かり保育を３人受け入れるということになってるんですけど、いろんなとこで話聞くと、預かり保育の受け入れる先が少ないという話も実態として聞いておる中で、やっぱり預かり保育の体制が整うような目標を設定していくというのが、普通考えることのような気がするんですけど、何で目標が設定されとらん

のかなというのを逆に思うところなんですけど。

今回新しく幼児園にお金をかけて建設する。そこには預かり保育を依頼してたと思うんですけど、目標が達成されてるから必要なければ別にそれ、新しく依頼する必要もないような気もしますし、何かその辺をもうちょっとやっぱり分かりやすく我々に説明していただきたいと思いますし、本来事業を行うのであれば、目標は作ったほうがいいと思いますので、ここの数字は入れたほうがいいかなと思います。

○委員長（奥村一仁君）

１番　福永泰子君。

○１番（福永泰子君）

先ほど熊谷委員もおっしゃってましたけど、これの周知の必要があるということで、私正直、周りの子育てしてるお母さんたちに聞いてみたんですけど、こういう制度があるという、こういう制度は給付がされるということ以前に預かり保育とかファミリー・サポート・センターとか、一時預かりというサービス自体を認知しているお母さんというのが意外と少なくて、例えば自分が病気になって入院しなきゃいけないのに見る人がいないという、結構、せっぱ詰まった状況になれば必死になって探してとか、周りが心配してとかあるんですけど、やっぱ目に見えない、大変だけど、これぐらいみんなやってるよとかっていうそういうレベルのことでも、この一時預かりとか別に使えると思うんですけど、知らないから使ってないという方は結構いるので。

先ほど言われてました受け入れ側がやっぱりまだ数がそろってないというのもあるかと思うんですが、それ以前に余り浸透しないということが事実あるということをもう少し受け止めていただいて、周知の方法を、基本的には何カ月健診のときとかというふうにおっしゃってましたけど、それで浸透しないのであればまた別の方法を考えていかなければいけないのかなということを思うので、もう少し周知していただけるように取り組んでいただきたいなと思います。

○委員長（奥村一仁君）

８番　樋田翔太君。

○８番（樋田翔太君）

子どもが生まれたので、どういう説明があったかといいますと、こういう事業があってこういうときに受けられますよという説明はありました。しかし、住んでる人、近くに親がいたりだとか、頼れる人が近くにいれば、別にこの事業自体、必要とされるところにはその事業届けばいいんですけども、うちは特に必要はなかったという状況です。

どういったときに使えるか。自分はよく知ってるんで困ったら使おうかなとは思うんですけども、やっぱり一般の方でこういう、例えばその説明を受けた紙を渡されても、何かいざ使うときの心のハードル的なところがあるのかなというのは思いました。

なので、そこをいかに使いやすくしてあげるかというところは、この事業の中でできるかどうか分かりませんけども、周知はとりあえずできているのかなと。ただそれを使うまでのハードルがちょっとまだ高いんじゃないのかなというふうには僕は思いました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

13番　榛葉利広君。

○13番（榛葉利広君）

確かこれ事業評価調書にも書いてあったと思うんですけど、要するに使いたかったけれども、断ったケースがあるというのがあるんですよね。これ、どういう理由かなと考えると、やっぱり保育士不足なのかなと。そこを解決しないと、申し出があったにも関わらず断ったというのは、非常に残念というか、かわいそうやなというふうに思いました。

あと若い方、ちょうどやっぱり小さい子どもさんがおられる委員が高評価。これは、高評価したいよね、そりゃ。使えんようになったら困るもんね。そういうこともあるので、年齢層によっても考え方とか評価も違うのかもしれないですけど、そこら辺が何かちょっと問題をはらんでるような気がするので、委員もぜひ保育士を紹介してあげたいと思います。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

12番　成瀬徳夫君。

○12番（成瀬徳夫君）

今、榛葉委員が言われたんですけど、私もそれはもうつくづく思ってたことで、あのときに私、次長に予算は本当にこれで足りるのと聞いたんだけども、足りておりますと言うんだけど、実際にその保育士が足りないことをあの人は言わないんですよ。

実際に保育士を増やせば、予算をもっと上げないかんのですよね。予算を上げれば、もっとこれ、それこそ断る必要もないし、そういうことができるんだけども、そういうことがこれ裏にあるのかなと私自身はこれ読んでおったわけなんだけども。

だからやはり予算を上げて保育士を増やして、子育てなんていうのは人口増加の１丁目１番地なんで、これはやはりもう少し予算を上げてきちっとした形で人員の配置はしていくべきだと私は思いますので、その辺だけよろしくお願いいたします。その辺がはっきりすれば、もっと私はいい点数をつけたいなと思っておりました。

○委員長（奥村一仁君）

１時間たちましたので、15分程度休憩を取りたいと思います。

10時15分から再開したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

午前９時59分　休憩

午前10時13分　再開

○委員長（奥村一仁君）

少し早いですが、始めたいと思います。

○委員長（奥村一仁君）

次に、④下水道事業会計（農業集落排水の統合）について、ご意見をいただきたいと思います。

まず、高評価の成瀬委員からよろしくお願いします。

○12番（成瀬徳夫君）

農業集落排水の件なんですけども、私は月吉の農業集落排水を計画から全部作るときまで、月吉で携わりまして、その時点において、最終的にはこれ公共下水へつなぐんだという頭がありました。

その目標がありまして、今回この形で最終的に公共下水道につながったというので、非常に私は満足してるわけなんですけども、地域の方々、それから、日吉の方々もだと思うんですけども、下水ができたということで、非常に地域性が良くなったということになっておりますので、私は完了工事のため満点といたしましたし、多少まだいろいろ残ってはおりますけども、これは附属したことでございますので、完了工事ということで、満点といたしましたのでご了解ください。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございました。

次に、同じく樋田委員、お願いします。

○８番（樋田翔太君）

この事業ですけども、水道会計は結局何かプラスになってることが多い会計の中で、これだけのコスト縮減を考えて動かれたのが大きいかなと。年間の維持費の差額は2,300万円ということで、これ、本当にやって良かった事業だなということで高い評価にしておきました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

では、評価の低かった福永委員にご意見を伺いたいと思います。お願いします。

○１番（福永泰子君）

成瀬委員と樋田委員がおっしゃったように、この統合によって経常経費の削減ということでは、削減されている部分もあり、かつ実際使われてる方はそれで利便性が良くなったということであれば、そこの部分は良いことなのかなというふうに思います。

目標値を一応定められているということで、そこの目標数値が達成できていないということに関して、何が原因であるのかということでは、電気代等の高騰というふうでありますが、本当にそれだけであるのかどうかということもちょっと検討しにくいのと、それで光熱費が上がったんだから仕方がないというふうで、目標数値に達さないことをずっとそのままにしておいては、せっかく削減に至ったにも関わらず、やっぱりどうしても目標に届かず、ずっとその分がかかってしまうということでは、せっかくの事業も100点ではないのかなということで、そこの原因の究明とそれに対するあれが必要なのかなということで、評価はＣにさせていただいてます。

○委員長（奥村一仁君）

14番　熊谷隆男君。

○14番（熊谷隆男君）

事業自体はありがたいことやけど、これ僕説明会へ出たけども、この事業を進めるにあたっての説明会は、税務課と、それから、上下水道課が来て、２つの説明をするわけね。説明の進め方として。それで、上下水は必要であると、この事業は必要やという説明をする。こうなりますよということの説明もする。

その後に税務課が、都市計画税でこれを上げますよというところの説明をするわけやけども、なかなか理由づけというよう分からんところがあるわけ。ほかのところと。

それでまた、１件当たりにつけたところに都市計画税がかかってくるわけやけど、つけなきゃかからんわけやね。それで、そのことの説明というのか分からんもんで、これ進んでいって、このつい１年前ぐらいのときに、都市計画税が上がると、今まで払われとって高くなっとるわけよね。電話も何だかかってきて、「おまえ、日吉のどこが都市計画なんや」って、「どこか都市か言ってみよ」って、こうやっていうのがあるわけ。

それで、進め方からすると、やっぱりそこ肝心なところで、やることの事業に対して異議も何もそう出んのやけども、それを分けて説明されると、難しいわけやなもう。何で都市計画税にならないかんのやということの議論。

それから、告知はしとっても、市がやることやで決まったことやらと言って、出なんだ人も多かったわけやけども、利用者で言うと。これは何かと言ったら、単純に上下水になるんやなというぐらい、ほとんど説明だけやと思っとるから、そのことがどうやって今度次、お金に関わってくるかということの説明をせんもんで、恐らく担当課にも電話いっとれへんかと僕思うんやけども、その進め方というのが、これはそちらが答えるべきやぐらいな感覚で質問が出るようになると。

そうすると分かりにくいと。これがこの事業を進めるにあたっては、もうちょっと丁寧な、分かりやすいことが必要やし、誰もが払う料が上がるわけやから、その部分に関しては別に扱うのなら、もうちょっと懇切丁寧に説明しなきゃいけないんやないやろかと。

そんなことなら、合併浄化槽のほうが良いやないかと後で言われても、こちらも困る話で、もうちょっと優しくして説明してあげないと。特に年寄りの人が多いので、その辺のところだけは、今後これはない、終わった事業であるけど、この事業自体がもう完璧に良かったとは、その時点だけでは余り認めがたいと僕は思う。

○委員長（奥村一仁君）

12番　成瀬徳夫君。

○12番（成瀬徳夫君）

これ都市計画税のことが今出てきたわけなんですけど、私どもの地域では、都市計画の説明のときには、何も意味なかったです。やはり公共下水になれば都市計画税はかかりますよという説明をしていただいた後、面積的にはどうだという話になって、実際にその家を建てとるところの面積だけにかかってきますよという話だったんで、それならという話で納得してもらったんだけども。

あとは総務省が推進したことであって、総務省がお金を出すという話だったんで、だから今回はこれを統合した形にならないと、これずっと農業集落排水のままにしてたら、農業集落排水を続けていこうとすると、改修費とかそういうもので、物すごく今からお金がかかるということがありましたので、その辺も説明をしていただきました。

農業排水、上下水道課から説明をいただきまして、ただ私どもの地域ではそういう形で納得をしていただいたというのが現状でございますけども、実際に下水が、それは私どもの近くの地域で引けるということは画期的なことだったんですよ。本当に。

これ釜戸が今、公共下水がないんだけど、釜戸は100年たっても多分もうできないと思いますよ。月吉、日吉は下水があるんですから、もうこれはもう本当に画期的なことだということを自身に私は自負してるわけなんだけども、だけどこれがうまくやってくれたというのは、私は良かったなと思って、先ほども言ってますように、100点満点にさせていただいたというのが現状でございます。

○委員長（奥村一仁君）

14番　熊谷隆男君。

○14番（熊谷隆男君）

現実的に合併浄化槽で補助もらって、自分でやるとそのほうが安くついちゃうんだよね。下水を使うよりも。そうすると、現実的にどちらがいいかと。それで、またなおかつ言えば、上下水があれしたら、市は保全を必ずやってかんなんということであると。

計算をしたらね、家族の構成であったりあれでしたら、合併浄化槽のほうが得やないかということも言われることもあるわけ。そういう比較は分からんし、自分とこが個別に、「あんたとこは幾らになるで」という言い方じゃないので、年の人には分からんわけよね。自分ところが、固定資産税のところ、都市計画税のところに幾ら出てくるかということが、出てくるまでは現実に幾らになるかということが想定できんわけ。

どちらがいいかということになってくると分からんけども、これからは入らないと増えてくんじゃないかと。仮に言うと、隣で入っとって、隣で家でもということで言うと。

だからその辺のところを、今言われたようなことの説明を、入ってない人にも、今まで利用してない人にも説明をしていかないと、「何でや。絶対ここは下水やよと。いや、そんなことないよ。合併浄化槽でもいいよ」っていうことになっていったら、これ進まなくなると思う。

理屈をちゃんと説明してほしいということが、一番思うところ。これからのことで思えば。

○委員長（奥村一仁君）

13番　榛葉利広君。

○13番（榛葉利広君）

日吉地区在住ですので言わせていただきます。評価としてはＢですので、確かに令和34年で６億円ぐらい縮減されるということで、非常に効果は大きいということは確かだと思います。

ただ、公共下水、上水道もそうなんでしょうけども、今後のインフラの老朽化という面では非常に問題があると思います。括弧して「農業集落排水」やで、下水道事業全体として見るとね。なの

で、そういう問題もこれからしっかり向き合って、熊谷委員の言われた、ひょっとしたら合併浄化槽でいいやないかという案も含めながら、どう更新していくかということをこれから議会としてというか、議員として取り組んでいく大きな課題だと思いますので、恐ろしい金がかかるというふうに言われてますので、その辺は皆さんもしっかり今後勉強していただきたいなと思います。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、ご意見出尽くしたようですので、次に進めたいと思います。

○委員長（奥村一仁君）

次に、⑤企業立地奨励事業についてお伺いします。

こちらも樋田委員が評価が高かったようですので、樋田委員からご意見いただきたいと思います。お願いします。

○８番（樋田翔太君）

逆に低いほうから聞きたいんで、いいですか。

○委員長（奥村一仁君）

はい。それでは、犬塚委員が最低ですが、ご欠席ですので、次に評価の低かった棚町委員。D評価43点ということで、よろしくお願いします。

○４番（棚町　潤君）

基本的には、瑞浪市だけじゃなくて、こういった事業というのはほかの市町村でも導入している補助事業になるのかな。企業立地奨励事業になるので、他市との比較というのが重要になってくるのかなと思う中で、やっぱり他市がやってるとうちとしてもやらざるを得ないかなという中で、出てくる話はやっぱり今、企業誘致が行える土地が少ないと。とある水産加工会社が瑞浪市に企業誘致したいという話が、残念ながら土地がなくて、ほかの市に行ったというような話も聞いてたりして、やっぱり実績数が伸び悩んでるのは、こういったそこの根本的な問題を解決しないと何ともこの事業自体を実施できなくなってくるんじゃないのかなというところがあって、そういう不安の中で、目標数値が10社以上の目標というのを出してるので、現実的にこの目標で、今の現状で難しいんじゃないかなというのが僕の判断でした。

なので、やっぱり周りの環境を整えないと、この事業をこのまま進めても右肩下がりになっていくんじゃないのかなということの中で、D評価をつけさせていただいたということです。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

８番　樋田翔太君。

○８番（樋田翔太君）

私も着眼点は同じようなところなんですけども、実績としてこれだけ上がってきている。雇用も生まれてるということで、ある程度高い評価はしないといけないかなと思って出しております。

ただ、今おっしゃったように、この事業自体は来る企業、来た企業に対して出すお金のところでありますので、そういった土地を確保したりとか、市長はやらないというふうにおっしゃってましたけど、これがどんどん、工業用に使える土地とか企業の誘致に使える土地を整備する事業はこれではないとは思うんですけども、やっていく必要あると思ってます。

ただ、ここの事業で評価を下げてしまうと、もう企業誘致とかそういうのは余りしなくていいのかとか、できないんじゃないのかっていうふうに言っちゃうと、どんどん縮小しないかなと思いまして、ちょっとある程度評価は高くして、ただ意見で出たところであれば、企業立地をするための別事業を起こす必要があるかというところは、つけてもいいのかなと私は思いました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

それでは、ほかにご意見ある方、お願いします。

15番　加藤輔之君。

○15番（加藤輔之君）

企業立地という言葉から見ると、企業で工業的なところばっかりかなっていう感じがするわけですけども、ここのところが前回からちょっと変わって、福祉事業にも目が向いておるということで、今度、中小零細のいろんな福祉関係の団体もこういう修正ができるということで、大変、陶の場合、「いちにのさん」が応募して通ったっていうことで、大変喜んでおられたんで、今後そういう別の意味の事業にも受けられるということが良いことやなと思って、私はＢ評価にしました。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございました。

14番　熊谷隆男君。

○14番（熊谷隆男君）

これ企業立地で、雇用とか人口流出ということになるわけやけど、うたってあるわけやけども、現実的にそれだけの労働人口が瑞浪市にあるのかなと。アイシンが出てきて、それじゃあ、どれだけ地元の人間が雇用されてというよりも、もっと瑞浪のとか、近辺というか、応募が多くてっていうことを企業も考えとったのに、違って結構遠いところからね、春日井やあちらのほうからも通ってきてる人もおるわけやけども、その目的がだんだん変わってきてる。大きい一般財源を使っておるわけやけども、本当に目的なのか。産業振興が目的であるとか、地域経済でどうやってことならまだ何となくあれやけど、人口雇用ということっていうものを、やけに主体なやり方であるわけやけど、この当初の目的とはもう違ってきてもいいのではないか。

いろんなところにもうちょっと目を向けてもいいじゃないかなと。目的自体を持ってても いいのではないかなと。だから来てくれたところの、さっき、加藤委員が言われたみたいに、もうちょっ

とこれで雇用割れということであるなら、既存の自前の企業やなんかに関してもいいのではないかな。ほかから来てもらうということを望むのであれば、またそれ目的が変わってきたのではないかなっていうような感じはするわけよ。

だから、もう一遍、本当にいまだこれを続けて、企業立地を進めていくのか。場所はあるのか。これからのっていうことを行くと、ちょっと見直す時期が来とるんではないかなということを思う。クリエイション・パークも満杯なわけやな。またそういうことを考えると、これだけをどうっていう、既存のところへ払っとるような感じになっちゃうわけやけど。

その辺のところが何となく合わなくなってきとるんじゃないかなと。見直しが必要な時期が来とれへんかなということを思います。

○委員長（奥村一仁君）

12番　成瀬徳夫君。

○12番（成瀬徳夫君）

今、熊谷委員が言われたように、雇用が一番の問題だということだと思うんですけども、やはり今、企業っていうのは、即戦力の人間が欲しいんですよ。だから、学校を出たばっかりの人、それから、ずっと５年、10年と育てていって技術者にするとか、そういうことがなかなかできない。だから技術的なことを勉強した連中っていうのは、すぐ企業として欲しいんだけども、だけどそういう人材っていうのはどうしても外のほうの企業のとこへ行ってしまうというのは、私は現状だと思うんですよね。

ですから、その企業立地をやっても、人材を増やすというのはなかなか難しいんじゃないかなと私自身は思ってますし、また瑞浪市の人口からして、これはここで働いてくれるという人がなかなか少ないんじゃないかなということを私自身思ってるんですけども。

個人的なことを言いますと、私の孫が、実のことを言いますと、こちらにおりたい、瑞浪にいたいんで、アイシンエィ・ダブリュ瑞浪に行きたいんだと言って就職試験を受けたら落ちてしまって、それで実際、アイシンに行きたいんだって言ったら、アイシンの本社を受けたらどうやっていったら、本社のほうで雇ってくれるようになって、結局実際に今、アイシンの本社のほうにおるんだけども、そんなような形で、やはり企業も瑞浪市の企業でも即戦力がやっぱりないとあかんということで、多分取ってると思うんですよね。

だからそういうことを考えると、やはりそういう人間が瑞浪市におるか、おらんかということが一番の課題であって、そこで人口、雇用を増やすってのはなかなか難しいんじゃないかなと私自身は今思ってるんだけども、ただ、会社に入ってそこに勤めて給料をもらって生活すればいいっていう、そういう時代じゃないんじゃないかなっていうふうに私は考えておるんですけども。

そういうことを考えると、やはりちょっと企業誘致に関してはもう少し考え方を変えていかないといかんかなと私自身は持っております。実際に私の点数としては、62点、本当はＢ評価ぐらいあげたかったんだけども、さっき熊谷委員が言われたように、どこがそれこそ、これから企業立地の場所にしていくんだっていうこともありますので、その辺も今後考えていかないかんのかなと思う

ことで、62点というＣの評価とさせていただきました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

16番　柴田増三君。

○16番（柴田増三君）

僕はどちらかというと、企業立地どんどんできればして、最終的に何かと言ったら、市の中に税金として入ってくる部分という考え方をしてるので、固定資産税にしても、減免をしても最終的には税金をかけて取り戻すやないけど、市の税収に入る。当然雇用があればそこから市民税も入るとか、その辺の部分を考えての評価っていうかね、今後どんどんあれば企業立地する土地とかそういった面が大変難しいことになるだろうと思うんですけど。

先ほど、加藤委員が今のでね、福祉の事業でもやったというか、あそこも自分とこで土地を買ってそこに広めていったわけやもんで、最終的にそこにはまた税金がかかってくるということで、そこに働くことと、そこから起きる税収の面を考えた場合、やっぱりそれ必要な事業じゃないかということで判断してます。

○委員長（奥村一仁君）

15番　加藤輔之君。

○15番（加藤輔之君）

もともと我々陶の町では福祉に力を入れておるわけですけども、その中で、福祉団体が今、「どんぐり工房」と「サニーヒルズ」と「いちにのさん」とあるわけですけども、それぞれが年間１億円以上の売上げを持っとるということで、雇用だって３つ合わせれば100人以上の人、正社員じゃないにしても、パートにしても、それぐらいの人を今雇ってくれておるわけですので、本当に今後、福祉事業といったって、もう一つ一つの企業だというふうに十分認識できるというふうに私は思っておりますので、この事業はやっぱり今後大切にしていく必要があるというふうに改めて思いました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

ほかにありませんか。

なければ、熊谷委員の目標指標がゼロ点のところについてちょっともう少し詳しく。ご意見の中でいただいてはいましたが、目的を見直す時期ではないかということをおっしゃっていただきましたが、もう少しちょっとご意見を、目標指標についていただければと思いますが、いかがでしょう。

○14番（熊谷隆男君）

違うか。企業率。

これ10社という目標を立てて、本当に新規に来るところの現実味というのはあるのかと。まずは上げといて、それで実績はもう既存のところへ出しとるだけやから、目標と挙げるのならば、奨励するわけやから、立地を。出てきてくださいよと、企業立地してくださいよということであれば、

示す数字はそちらじゃないっていう。声かけとるのか、来たのか、来るようにアピールしとるのか。

この来たところに、実績で、これは決算のあれやから上げるんやけども、目標とするところがって言ったら、これ変わりようがないわけ。もう来年の数字まで分かっちゃうわけ。これで言えば。それで言うことというのが、目標の数値としていいのかどうなのかっていうことでは、何もやってないな感が多いので、です。

○委員長（奥村一仁君）

ほかに、目標指標のことについてご意見ある方。

11番　小木曽光佐子君。

○11番（小木曽光佐子君）

今、私も熊谷委員が言われたのと同じなんですけど、新規に新たな企業が来るというための事業を進めるはずなんだけど、何か既存企業が使ってることが多いような気がする。なので、土地がないので誘致できないみたいな話をされていたので、土地をどう確保するかということをもう少しきちっと明確にしたほうがいいと思うし、やっぱり新規の企業を誘致するというところにもう少し力入れたほうがいいなというのは感じました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

８番　樋田翔太君。

○８番（樋田翔太君）

今、意見出てますけども、やっぱり10社来てもらおうと思ったときに、それだけの用意が市にないのかなというふうには思っております。

先ほど、柴田委員も言われてましたけども、やはりこれ、２つ側面があって、雇用の面と地域経済の振興ということで、アイシンが来たときに、確かリーサス見たときに、瑞浪の工業出荷額が倍になったんですよね。ということは、それだけ今後入ってくる税収も増えてくるというところが見込まれますし、市民税だけで市はやっぱりやっていけないところは、企業、法人から入る税を上げていく必要があると。であれば、ちゃんと10社達成できるような土地なり、いろんな準備が必要かなというふうに思っております。

なので、この事業自体は来た企業、進出する企業に対して交付をしていくようなところだとは思うんですけども、その準備を、この事業かどうかは別として、ちゃんとやっていかないと、今後この事業ができなくなっていくというふうに思いますということで、お願いします。

○委員長（奥村一仁君）

14番　熊谷隆男君。

○14番（熊谷隆男君）

この間も市長も言ってみえると僕は思うけども、大きい工業団地を作ってどんどんということではなくて、それこそ四国の神山町、ああいう小さいけども大きい企業というのがあって、５集める、何とかバレーというんやけど、忘れちゃったけど。

小さい古民家のようなところであっても、人は大きい企業で、取り扱いのお金も大きいんやけども、今のＩＴを利用してできるということで言えば、企業の形が、工場があって、みんながそこで働くというイメージではなくなってきとるんやから、人件費とか雇用だけで限らずそういうところにももっと奨励を出せるような誘い方というものをせんと、この古いイメージで伝わること自体が何となく良くないなというか、今も来てないなという気がするので、時代に即応してない感があるので、狙いどころは僕はこれからはそういうところではないかなと。企業立地を奨励していくのには。

だから、本当にそういうことも含めて見直しをしていただきたいと。

○委員長（奥村一仁君）

ほかはいかがでしょうか。

加藤委員が目標指標10点ですけど、何かそのあたり、ご意見あれば伺いたいと思います。

○15番（加藤輔之君）

理由は、大変ありがたい事業やから、ぜひ進めてもらいたいということで、10社ということについては、これはちょっと数字的には何とも言えんけども、十ぐらいあれへんかなという気はしますけども、特に意味はありません。

○委員長（奥村一仁君）

ほか、全体的にご意見あればお伺いします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、特にないようですので、次へ進みたいと思います。

○委員長（奥村一仁君）

次に、⑥多面的機能支払交付金事業です。

樋田委員が最高評価ですが、何回かご意見いただく機会がありますので、次に高い大久保委員、Ｂ評価、74点ということですので、評価理由について、よろしくお願いいたします。

○10番（大久保京子君）

私の評価は、このシートに記入してあるとおりなんですけれども、地域住民が一緒になって農業従事者と地域の農村環境を守ることは大切で、市が支援するこの事業は重要な事業と考えております。しかし、目標指数の設定が、４つの活動組織が申請した面積であって、達成率が100％超えであるというその表示というか、その評価の方法がこれでいいのかというのはちょっと疑問があります。

この後の、評価理由のところで耕作放棄地の増加減少とかと書いてあるんですけども、ちょっと余計なことを書いちゃいました。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

続いて、低評価の方のご意見をいただきたいと思いますが、福永委員、よろしくお願いします。

○１番（福永泰子君）

それこそ今、大久保委員もおっしゃったように、この評価の数字に対してですけど、そもそもこの間のお話を聞いたときもそうでしたけど、もともと申請されるところが分かってて、その分かってるところを目標数値にしてるということは、そもそも目標ではないという認識になってしまうのではないかなとは思います。

もう達成する、しないという、目標としての数値としておくには、そこに対してちょっと目標として正しくはないんじゃないかということでも、評価をさせていただいてます。

もし本当にこの事業をもう少し活用してもらいたいという思いがあるのであれば、実際に市内にこの交付金を必要としている事業がこれだけしかないというのであれば別ですけど、結局何か言われてましたけど、書類作成が難しくてなかなかそこがクリアできていないところがあるとかでは、問題点が分かっている以上、そこを改善して取り組んでいくことが必要ではないかなということで、この評価にさせていただいてます。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございました。

同じく低評価がもうひと方、柴田幸一郎委員にもお話を聞きたいと思います。目標指標がゼロ点ということで、そのあたりについてもよろしくお願いします。

○５番（柴田幸一郎君）

地域ぐるみで農地を守るとか、長寿命化を図るということは、ある意味、必要性や事業主体としては必要なことであると思っています。だから、真ん中ぐらいの評価をしておりますけども、目標数値は、そこの団体が行う面積を数値化している。つまり、市としての主体性が全くないと言って過言ではないと思っています。よって、市が主体してないから、ゼロ点という低い点数をつけました。

また、この事業は地域住民と一緒になってやろうとか、そういう目的でありながら、農業従事者ばかりが行っている。これを効果的であるというのか、成果が高いというのかは、私としてはちょっと残念だなと思っています。

しかし、51.5ヘクタールという物すごい大きい草刈りや点検をしているということは、ある意味、高い評価をしてもいいかなと思ってはおります。

で、真ん中ぐらいの点数に、私は目標を立てて、D評価、45点としております。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございました。

ほかにご意見ある方、いらっしゃいませんか。

13番　榛葉利広君。

○13番（榛葉利広君）

多分、柴田幸一郎委員の次ぐらいの点数かと思います、D評価です。

確かにどんどん農地が、うちの田んぼもそうなんですけど、どんどん荒廃しとって、それを守ろ

うとしておる事業で、ただこれも国と県の事業ですね。

何て言うのかな、ちょっと近隣で聞いても、しっかりできておるところもありますけども、やったけど、今は諦めちゃったという。やっぱり書類作成がかなり面倒で、大変やということがあるみたいです。

なかなか結構、荒れた農地を再生するわけではないですけど、維持しとるような感じなんですよね。中にはこういう方も見えます。これはちょっと本質論になってくんやけど、要するに国の税金を使って、圃場整備をしたんですけど、結局うちもやってます。やけど、維持ができんということもあるし、これをやったおかげで、要するに宅地にもできんということがあるんですよね。これ何とかならんやろかという話が結構あるんですよね。

国が決めたことなのでそんな簡単に答えが出るとは思いませんけれども、ちょっと無理がかなりあるんじゃないかなというのは、常に感じておるので、こんなこと、今これ言ってもいかんのかもしれんですけど、ちょっとそういう問題をはらんでおるなというふうに思います。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

14番　熊谷隆男君。

○14番（熊谷隆男君）

これ結構利用されてるところがあって、最初の頃は草刈りであり、水路の保全というようなことで、地域も本当に地区で言う班単位、区単位で取れるところのわけなんですよね。国の半分は持ってくれるということで、むしろ、さっき大久保委員が言った耕作放棄地を対策する意味でもこれ大事な事業でもあると僕は思うけども、榛葉委員みたいに、書類申請を出すのが非常に難しい、煩雑。

ここにも書いてあるので自覚するところやけど、そうするとどういうことが起きるかというと、そういうことにたけた市の職員の退職した人がおるところはどえらい進んだりするわけよ。その人が作ってくれるもんで。だけどそうでないところは、まるきり素人がゼロからやろうとするとすごい大変だというようなことがあって、そこが大きなハードルになっとると。

僕、ここにも書きましたけども、この目標数値はやっぱり申請件数を増やすということにしたほうがいいのではないかと。何件のところが申請をしてくれた。もしくは相談してくれただけでもいいので、これを活用しようとしているところが、声が上がったということを挙げるようなことにしてもらったほうが活用が促進するやないかと。

これは細かなところでも金が出るので、何も全部なんていう大きい事業をやらなくても、活用の仕方によっては利用ができるというふうに僕思うので、なるべくなら促進をするのに、消極的だなという点で、C評価。もうちょっと積極的に利用促進をしてほしいと。

○委員長（奥村一仁君）

11番　小木曽光佐子君。

○11番（小木曽光佐子君）

私も目標指標ゼロ点なんですけど、やっぱり今言われたように、指標が申請があったところじゃ

なくて、やっぱりもっと多くの営農さんもありますし、もっと多くその、ある団体の数を目標ぐらいにしてもいいのかなというのと、実際にうちも水上営農でこれもらってますが、書類も確かに複雑で大変。まあ、でも農林課がかなりその辺のところをカバーしてくれるようになったので、取りやすくはなった。

申請すれば取れるやつなので、皆さんがもっと取りに行けるようにするのと同時に、書類の簡素化も考えていくというお話もありましたし、それと今の耕作放棄地にならない農地の守り方とか、効率的な管理の仕方というような指導も入ってくると、こういう補助金を取ったときに利用の仕方が分かりやすいかなというところも含めて、期待も含めてですけど、Ｃ評価にさせていただきました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

それでは、目標指標が10点の柴田増三委員にもご意見を伺ってみたいと思います。

○16番（柴田増三君）

なかなか指標が出しにくいということで、成果の中からやったということで、それはそれで理解したということです。

それから、優良農地をやっぱり保全というか管理していくためには、これ必要な事業やなと思ってますので、そういった点でどうなのかということと、それから、国の補助金を有効に使える事業ですので、どんどん使える部分についてはこういった面でいろいろ農地を保全していくためには、これは必要な事業だという評価という考え方です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ほかにご意見いかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、ほかにご意見ないようですので、次に進みたいと思います。

○委員長（奥村一仁君）

次に、⑦小・中学校ＩＣＴ支援員派遣事業ということで、こちらも高評価の樋田委員にご意見を伺いたいと思います。よろしくお願いします。

○８番（樋田翔太君）

この事業なんですけども、本来、ＧＩＧＡスクールは、令和５年ぐらいから始めるものだったはずなんですけども、前倒しして一生懸命やっていただいてるかなと。

評価のほうにも書かせていただきましたけども、各校にサポートの体制がついて、うまく活用されているかというふうに思います。

事業改善のほうも、共通した認識を持つために手引きみたいなものを作って、どの学校でも同じようなサポートを受けられるような形にしたと。各学校に支援員を配置したということで、継続的

にできるといいかなと。

あと、私の個人的な見解なんですけども、今、ＩＣＴを使えない方で教員免許を持ってみえる方も多いんですけども、今後、子どもたちが成長して教員免許取っていったときに、ＩＣＴがある関係は当然になってくるとこの事業は要らなくなってくるのかなというふうに思っておりますけども、過渡期といいますか、このＩＣＴが急激に進んだところで、しばらくはこの事業で子どもたちの成長にＩＣＴをしっかりと入れていくというところをやっていただければと思いまして、高い評価をつけました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

続いて、低評価の福永委員、よろしくお願いします。

○１番（福永泰子君）

今、樋田委員がおっしゃったように、これからＩＣＴが当たり前になってくる中で、必要であるとは考えるのですが、事業評価の話をしたときに、どんな質問が来るんですかということに対する回答が、Wi-Fiがつながらないとか、そういったことの問い合わせに対して支援員の方が対応しているということだったので、そちらはもうＩＣＴ、まだそのレベルだと言われればそれまでだと思うんですが、そういったことはわざわざ支援員、この使ってる金額が大きいなと思うので、必要であるのであれば、そこから教えていくというか、フォローしていくべきではあると思うんですが、求める姿がどこまでなのかということを考えると、それは支援員でなくても教えられるのじゃないか、こんな大きな金額を払わなくても指導していける部分ではないのかということを思ったので、ちょっと評価は低くなりました。

また、併せてＩＣＴを使いこなさなければということばかりに気が行き過ぎて、モニタリングという話もありましたけど、子どものほうがやっぱり機械に慣れてて、先生のほうが教えられてしまうというお話はありましたが、事実、ＩＣＴで何をやってるかというと、やっぱり授業なので、パソコンの使い方を教えてるわけではないということが、ちょっと何か、そこを、パソコンを子どものほうが使えるからっていうことで、先生と生徒のパワーバランスが崩れていってしまうということに対してはちょっと危惧するところがあるので、そこをフォローできるように、このＩＣＴの支援を有効活用していただいて、授業の内容を充実して、もうそもそも授業するためのものであるということをしっかりやっていっていただきたいなという。期待を込めて、この評価をさせていただいてます。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

同じく低評価の三輪田委員にもご意見を伺っていきたいと思います。三輪田委員、効率性が７点ということで低評価になってますが、その点も含めてご意見いただけたらと思います。お願いしま

す。

○６番（三輪田幸泰君）

私も今の福永委員と同じような思いを持ちまして、支援といっても機器のハードとソフトでしかしかないので、やはり今のＩＣＴが始まってこれで２、３年たっておりますから、何回同じようなことをやっておるんだというふうにしか思えんのですけれど。

もうそろそろ卒業してもらってもいいのかなと思いますし、あと先生の支援事業はいつまでも機器の支援は必要とは思えない。ソフトに関して、年中支援の必要性も見いだせない、また、機器の更新でやはり新しい、私らでもスマホでも新しいやつになればちょっと分からんとこがあると思うんですけれど、そこら辺に関しては当然必要になってくると思うんですが、そこまで念入りに３人さん配置しなあかんのかなというふうに思うのが正直なところです。

○委員長（奥村一仁君）

16番　柴田増三君。

○16番（柴田増三君）

逆に、これは過渡期というか、どんどんどんどん新しいというか、今、これから教員になっていかれる若い方については、そういったＩＣＴには恐らく慣れてこられるということであって、今の僕らの年代的な部分で対応するためには必要な事業という部分と、それから、初めて僕、満点というか、効率性の部分で35点をつけたわけですけど、この今のトラブルについてもその対応は夜間でもでも何でもいいけど、迅速にそれが対応されるような仕組みを作ってみえるという部分については、あえて先生がその必要な部分を聞いたりとかするには、それに対応がされとるという部分について、非常に効率的な仕組みでやられとるなということで、初めてここのところは満点つけさせていただいたという経緯があります。

○委員長（奥村一仁君）

５番　柴田幸一郎君。

○５番（柴田幸一郎君）

私はＢ評価で81点という、私の中ではベスト２ぐらいです。

学校の先生が知識がないから、こういう支援事業が必要なんだと私は思っています。学校の先生が知識がないで、Ｃ評価とかＤ評価とかというものではなく、この派遣員の方々は、その先生が少しでもやれるように24時間体制の携帯を持って対応してくれるというすばらしいところもありますし、Ｑ＆Ａを作成したり、または講演会などのスキルアップにもつながっていると。こういった支援員さんたちがやっていただいていることについては高く評価していると思っています。

しかし、目標指数がいつも100％という考え方は、これはちょっといかんなと思っております。私は全体的に高い評価をつけさせていただきました。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

９番　渡邉康弘君。

○９番（渡邉康弘君）

私としては、もう全体的には高い評価かなとは思ってはいるんですけど、それでもＣ評価なんですが、目標を定めて事業を進めていく中で、もう少し高い目標、現状維持というのを進めていくのは良くないのかなと。次に進めていただきたいと思ってます。

あと、福永委員の話にもありましたけども、初歩的な操作やメンテナンスの理解されてない部分があるというのは、やっぱり少しずつ解消していかなあかん。過渡期の今のタイミングなので、ＩＣＴ機器を導入するのであれば、しっかりとそれが使えるようにして活用していく必要があるので、今後、これ先生のためというよりは、最終的には子どもたち、児童生徒のためになる事業と思ってますので、今後も指導、研修、マニュアル等の活用をしっかりとしていただいて、全ての教員の方がしっかりとタブレット等のＩＣＴ機器を活用できるようなスキル、指導力向上が進むように事業を進めていっていただきたいなと思っております。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

13番　榛葉利広君。

○13番（榛葉利広君）

私も79点ということで、Ｂ評価です。比較的高い評価ですけれども、ＧＩＧＡスクールをやるときに私が心配したのは、ベテランの先生方が本当にこれ使えるかどうかな、ちょっとその辺、心配したところがありましたけれども、瑞浪市の場合はＱ＆Ａとか活用マニュアルかな。ああいう紙ベースのもので作られて、やられて結構うまくいっとるという印象です。

もっと若い先生にいきますと、もうかなり活用されとって、Googleのサービスを使われたりとか、クラスメイトというサイトがあるんですけど、そこも使われとったんで、ちょっとびっくりしました。

僕は決してどこにも劣ってないような気がしますし、このサポーターに関しては、私が思ったのが、リモートで支援していただけるというのが、これ私は使ったことあるんですけど、非常に便利でした。自分で全くパソコンの操作が分からなくなって、何の設定が悪いんやろうというところで連絡したところ、自動的に私のパソコンに入っていただいて、直してくれたんですね。「ああ、これは便利やな」と思った記憶がありますので、そこまでやってみえるということは、やっぱり非常に有効な事業なのではないかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ちょっともうひと方だけ、ご意見を伺いたいと思います。目標指標がゼロ点の棚町委員、評価理由についてご意見いただきたいと思います。

○４番（棚町　潤君）

先ほど、柴田幸一郎委員からもご意見出てたと思うんですけど、目標数値が事業改善実施ということで、まずそれ何やなという。これどうやってこの数字を把握しとるんかなという、すごく何か分かりにくい目標数値で、聞いてみると、先生方がどのように授業でタブレットを使って、研究・発表もしとって、という中でこの数値が出てきてるということですけど、数字の根拠がちょっと分からんなっていうところで、この目標自体がまずいんじゃないかなということで、ゼロ点っていうのはつけさせてもらいました。

事業としては、皆さんもお話になられてましたけど、必要な事業だとは思っておりますので、もう少し適切な目標設定をしてもらって、年代ごとにタブレットの利用の仕方も変わってくると思うので、年代ごとの利用状況だったり、利用方法だったりがもうちょっと分かるような目標数値にしたほうが良いんじゃないのかなというふうに思いまして、ゼロ点にしました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

14番　熊谷隆男君。

○14番（熊谷隆男君）

もうこれは、本来の目標は、最初から導入するときには、やっぱり先生が大変やないかと。子どもたちに使わせるのかということで、思い出すのに、残業率というのか、勤務超過率というのは、先生は物すごい大きいわけですよね。働き、残業が多いわけ。

それを更に増長してしまうと。要は残って、次の資料を作るのにも、故障したらまたこれ直さんなんというようなことで言えば、こういう支援員の人で、その辺の手間でなくて、授業に集中してもらうということが根底にあるのかなと想像するところで、やっぱり滞りなく使ってもらうと。

得手不得手の人は先生でもあるわけで、やっぱりそれを補助するのには必要な事業という。そういう側面も単純に困っている事業というのはあるかもしれんけど、先生が授業に集中するための一つのツールではないかなということでの評価のつもりです。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○委員長（奥村一仁君）

じゃあ、もう一つだけ行きたいと思いますが、ちょっと加藤委員が午前中しかいられないっていうことですので、加藤委員のご意見がいただきたい事業が一つありますので、それちょっと先にやりたいと思います。お願いします。

⑩スクールバス運行管理経費について。一番最後です。すみません。ご意見をいただきたいと思います。

加藤委員がA評価、86点ということですので、評価理由についてご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○15番（加藤輔之君）

この事業については、スクールバスの運行についてもいろいろ国・県、それから、いろんな方面の交付税措置云々の調査をしっかりしてきました。その中で、国・県の瑞浪北中学校に対する５年間の保証金が1,332万円あります。それから、瑞浪北中学校、瑞浪南中学校のスクールバスの交付税措置が１台について596万円で、８台分で4,768万円あるということで、予算の4,968万円を1,532万円上回っておるということで、これは今後、瑞浪北中学校の補助金が５年間で終わってしまっても200万円上回るということで、余分に国や県から補助が戻ってきておるということで、そういう意味において、非常に効果的な、財政的にはそういう動きがあるというふうに思い、評価をいたしました。

ただこの事業については、腹の中ではいろいろ構想があって、気になる部分もありますので、今後もうちょっと評価を低くせないかんかなというふうに思っておりますけども、現状では今、いろんな事業の中で最高に効果的な、財政的にはうまくやっておる事業であるというふうに思ってＡ評価にしました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

続いて、低評価の方のご意見を伺います。渡邉委員、26点ということで低評価となっておりますので、ご意見お願いします。

○９番（渡邉康弘君）

書いてあるとおりなんですが、学校統合によって遠距離通学となった生徒に対してのこの足の確保というのは必須であると思います。なので、現状のスクールバスは要ると思うんですけど、瀬戸市であったり多治見市であったり、他市で学校統合してるところも含めて事例を見ますと、市民の路線バスやコミュニティバス、そういったところも活用してやっている自治体もあります。

また統合委員会の中のところでも、このスクールバス以外のバスとの併用の活用というのも検討されてはいると思うんですけど、最初にそういったところの検討が必要なのかなというところで、必要性はあるんですけど、市が実施する必要性だったりとか、この目標指数というのはこのままでいいのかなというところがありましたので、低評価になっております。

効率というところで、スクールバス路線経路内、スクールバスが動いてない中でも、徒歩で結構な距離を通学する方がいるよというのを再三いろんなとこで聞かされているところで、事業を継続してスクールバスを使うというのであれば、中学生だけの運営に捉われず、また通路内の何キロ増えたよと、ちょっと遠いよという人たちも、もうちょっとそこら辺に配慮したような運用を考えていただければと思いまして、Ｅ評価にさせていただきました。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございました。

では、ご意見ある方、お願いします。

14番　熊谷隆男君。

○14番（熊谷隆男君）

僕、目標指標をゼロ点にしたんやけど、これ本当にちょっと教育委員会は確認しとらへんかよと思うような書き方で、せめて、僕ここにも書いたけども、困っとる人もあるかもしれんということですよ。この通学手段の確保についてね。

そやから、やっぱり利用者でアンケートなり何なり取ってほしいと思うのは、その通学場所の車が来るところまで行くまでが何百メートルも小さい子でも歩かなならんと。小さい小学生でなくて中学生やけど。

各個人個人で利用の仕方が違うわけやから、場所も。やっぱりそれはリサーチをしっかりしてほしいというのがあって、満足しとるという人がどれだけおるかでもいいし、不満の人はどれだけって、そういう指標というものの自己分析がなされてないんじゃないかしらと。

で、１の１は何やねんという話で、通学手段の確保は、通学するんやから歩いていったって通学手段が確保されとるわけやから、別に通学ができない人がおるのかと。これを学校に入れとるのかという意味で言えば、通学手段は親に送ってもらおうが、歩いていこうが、走っていこうが、自転車で行こうが、確保されとるんやから、あたかも確保されてないがごときのこの指標の出し方は、もうおるぞのごとくは、何やなというふうに怒っとったと言ってちょうだい。

もっと本当に真摯にみんなが、例えば、通学するときにスクールバスの場合は、早く起きて、すごい早く起きてずっと乗っていく子もおれば、ゆっくり朝を過ごしていけるところもあるわけ。

そやから、やっぱり皆さんが同じようにということで言えば、いろんなことのリサーチを、これ毎年変わるので、利用者は。やっぱりそれをしっかりやっていただきたいと。そういうことをやっぱり指標で、授業に集中できるためのスクールバスのアンケートぐらいの感じでやってくれるとありがたいかなと。そこだけ思います。

○委員長（奥村一仁君）

１番　福永泰子君。

○１番（福永泰子君）

今、熊谷委員もおっしゃいましたけど、実際、実績と目標が、お話で聞いてると、バスが運行すれば１みたいな感じで確かカウントされてたみたいです。なので、実際、もしバスに誰も乗ってなくても、バスが運行さえしてれば１みたいな、達成しましたみたいなので、やっぱり私もおかしいなと思ってます。

事実、うちも、釜戸ですけど、バス停まではうちの子は15分歩いていって、体感の時間で行って、バス停に着いたら、実はバスが行っちゃってたとかっていうこと。だけど、バスが行っちゃったかどうかも分からなくて、ずっとバス停で待ち続けるっていうこともあったりということで、やっぱり実際、安全に登校できてるかどうかっていうことの把握は余りされていない。

でも、バスがないよりあるほうがありがたいので、親としては運行していただいているのはありがたいという気持ちでおればいいのかなということはありますけど、ただ、やっぱり実情というの

を把握せずに、バスが動いてるだけで達成されているという考え方はどちらにしてもおかしいと思うので、実情をちゃんと把握した上で。

私、評価シートにも書かせていただきましたけど、同じサイズのバスが運行している、同じ釜戸の中でも、あるバスでは満席で生徒が乗っているけれど、あるバスでは３人しか乗っていないということを目の当たりにしたときに、これは実際、効率がいいのかどうかと。あと、市民目線で考えたときに、効率が悪いな。

ただ、裏で話を聞けば、国の事業としてやっているので、バスじゃないと補助金が下りないということであるという話ですが、それが一番ベストなのかどうかということを再考していただきたいなということで評価させていただいたので、そこをお願いしたいと思います。

○委員長（奥村一仁君）

ほかにいかがでしょうか。

それでは、目標指標がゼロ点の棚町委員に再び伺いたいと思います。

４番　棚町　潤君。

○４番（棚町　潤君）

皆さん、おっしゃったとおり、もう言うことないなと思いましたし、前回のヒアリングのときに教育委員会にはちょっと話はさせてもらったので、そのとおりのことですけど、やっぱり子どもたちの利用の実態を把握することが大事かなと思ってまして、その実態を把握した上で最適な利用方法っていうことで、さっきバスのサイズの話もありましたけど、小型にすれば、逆に言えば２往復することだってできるかもしれないし、そうすると遠いとこからの子は大型のバスの子よりも早く着けるかもしれないし、その時間の短縮につながったりする可能性だってあるので、ちょっとその辺を最適化していくことというのが必要なんじゃないのかなというのを思ってました。

それを目標が１分の１と書かれるのもちょっと何か違うなというところで、これについてはゼロ点という指標を出させてもらいました。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

同じく効率性で低評価だった樋田委員からもご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

８番　樋田翔太君。

○８番（樋田翔太君）

ありがとうございます。私も一応ちょっと渡邉委員の考え方に近いのかなというふうに思います。やはり交通手段がないからスクールバスを出さざるを得ないというところだと思っておりまして、スクールバスにしますと、スクールバスですから、それ以外の用途には使えないですよね、現状は。ほかの地域で言えばコミュニティバスのようなものだといい、地域バスというか、なんかもうその地域は自由に使えるバスを作ってるところもあったりはします。

そうすると、通学のために送って、そのバスはずっと１日保持しなければならない。緊急のとき

には動かなきゃいけないということはあるかもしれませんが、それは非常に効率が悪いんじゃないかな。

だから、例えば、教育系の補助金をこうやって入れなければいけないというところはあるかもしれませんが、それは時間帯利用で分けてしまえば、ほかの公共交通とうまく複合化というか、できることじゃないかというふうに思います。

だから、スクールバスだからやらなきゃいけなくてこうなってますという、通り一遍の説明は受けるんですけども、それが本当に正しい姿勢か、ほかに何か手がないかどうか、もっと効率化できないかというところまで踏み込んで考えてないというか、やってるから良しというような評価の姿勢に、私はちょっと低い評価をつけなければならないと思いまして、こういう評価にいたしました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

この事業は唯一、委員の評価がＡからＥまでばらけている事業ですので、評価を修正する、しないは別として、ちょっと考え方のギャップだけは埋めといたほうがいいのかなと思って、もう少し議論できればなと思ってますが。

14番　熊谷隆男君。

○14番（熊谷隆男君）

この間、事務局長にも言ったことでもあるわけやけど、総合計画でスクールバスのスの字も出とらんぞと言ったわけです。これは公共交通にも出とらんし、教育のところにもスクールバスが明記されてない。

これは事業があって、市民に一番関わるようなところでもあることの指針を示していない。ここで今、渡邉委員も樋田委員も言うように、全体の交通のことを考える上で、スクールバスは確実に大事なことであるのに、これからの総合計画の10年の間一言も出てこないということの姿勢が、本当にどう思っとるかが聞きたい。

これだけの事業費を使っておる事業で、何もしない。増えることを予想しないのなら、また10年の間にスクールバスのあり方を示さないかんのやないという意味では、非常に大きな事業であるもんで、提言も市から、今のご意見の中にあるわけやもんで、しっかり総合計画でも捉えていただきたいと。

詳細なことがうたえない感じでしょうが、せめて教育は日本人、憲法の三大義務のうちの一つであるわけやから、そのものはしっかり対応していきますぐらいのことは書いたとてね、子どもたちの教育環境をしっかり守るためにスクールバスも充実しますぐらいのこと書いたって、罰は当たらんと思うわけ。

スクールバスこれで運行するなんてこと書けとは言わんわけ。それすらないということが。

○委員長（奥村一仁君）

ほかはいかがでしょうか。

これは問題課題のところにも総合計画、総合的な交通体系を検討してるというふうに書いてありますので、総合計画と全て含めて考えてみる。意見、評価するのも当然いいと思いますけど、ただこれ、一方で、事業としては管理経費なので、そこをどう評価するかということでもあると思うんですけど。

そのあたりについて、ご意見を持っていらっしゃる方はいらっしゃいませんでしょうか。

13番　榛葉利広君。

○13番（榛葉利広君）

意見というか、視察とか調べられた中での意見が聞きたいなと思うところなんですけど、確か文部科学省の交付金が入っとるもんで、子どもしか乗せれんということやったね。

やけど、これがちょっと非常に、結構、公共交通のことを言われる方が非常に多いので、ちょっと何とかならんかっていうことが多いので、これだけというか、朝晩しか知らないですけど、そのバスに相乗りできるようなことが、そういう事例があるのかどうか。

そういう工夫ができないのかな。本当に100％できないのかなということを検討してほしいと思います。

○委員長（奥村一仁君）

８番　樋田翔太君。

○８番（樋田翔太君）

いろいろ調べてみると、スクールバスの空き時間を利用したデマンドの活用みたいな実証実験をやってる地域は確かあるはずで、それがどういう案分の仕方、時間帯によって学生だけなのか、その乗車率に掛けて割っているのか、その辺はちょっと詳しくは出てきてないんですけども、その検討が全くできないということではないとは思います。

ただ、それが実証実験段階でまだほかに波及しない状態なのか、そこはちょっと定かではないんですけども、そういう事例は出てきますということで。

○委員長（奥村一仁君）

15番　加藤輔之君。

○15番（加藤輔之君）

去年、会派で、私と辻委員と三輪田委員と山下元議員と、飛騨市へ行って、この問題について勉強をしてきました。飛騨市では、旧河合村とか宮川村との合併で飛騨市ができたわけで、そのときからのスクールバスの因縁があって、そのスクールバスに一般の人も乗るし、荷物も載せるしというのが現実に今、飛騨市では走っております。

ただ１路線だけやけど、中学へ行くバスがあるということで、そういう存在があります。

それから、今、地元で公共交通の話し合いをしておりますけども、名古屋大学大学院の先生の指導を受け始めております。院生が毎回来ておりますけども、そこで今言ったような、今後、公共交通、それから、スクールバスの対策がこれから緩むんじゃないか。もっと柔軟性のあるふうになる

んじゃないかということを、今調べとるということを言っておりますんで、そういう話も今後出てくるんじゃないかということで期待はしております。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ありがとうございました。

それでは、これはここで閉めたいと思います。

○委員長（奥村一仁君）

もう一つだけ、午前中にやっていきたいと思います。

⑧混合焼却施設管理経費について、ご意見をいただきたいと思います。

それでは、一番評価が高かった方、A評価の方が何人かいらっしゃいますが、点数が高かったのが小木曽委員ですかね。よろしくお願いします。

○11番（小木曽光佐子君）

私は単純に、施設、今度、広域化ということをやるわけですけど、その中で費用をかけないように改修、あと点検とかやってるっていうことで、努力が見られるなということでA評価にしました。

先日、防府市のクリーンセンターを見てきたんですけど、110億円という金額をかけてやっているというので、今後、広域になるときには必要なことだと思うんですが、今、今度の補正がつきますけど、上手に付き合いながら費用をかけないように今の施設を守っていくというスタンスには高評価であるということでつけました。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

続いて、評価が低かった方のご意見をいただきたいと思います。C評価、57点の榛葉委員。よろしくお願いします。

○13番（榛葉利広君）

必要性、実施主体、目標指標のところですが処理量は減らされて、努力の跡が見える。あと10年の延命というふうにうたってありますけれども、それも何とか成し遂げていただきたいなという思いはあります。

ただ、修繕等の予算の増加の心配があるのですが、もう要するに、今まで財源としておった交付金が切れたということがありますので、これが大変大きな課題かなと思います。

現状では、その広域化という話が進んでますけども、それを成し遂げないとえらいことになるなっていうのがちょっと心配なところです。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

低評価の方、もうひと方。辻委員にもお話聞いてみたいと思いますが、いかがでしょうか。67点、Ｃ評価ということで。

○７番（辻　正之君）

Ｃの評価をさせていただいたわけなんですけども、混合焼却施設の維持管理ですね。これの必要性は高いと思うわけですけれども、ここに書かれてるような効率的な施設運営により、ごみ焼却経費のコスト削減を図ると共にというようなこともありまして、長寿命化を図っていくというようなことから考えますと、大変ちょっと難しいんじゃないかなと。

これからそういう修繕コストとか、そういうようないろんな経費がかかってきますので、ちょっと難しいような感じがしましたので、この総合的な評価としてはＣ評価というふうにさせてもらいました。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

それでは、ほかにいかがでしょうか。ご意見ある方、お願いします。

12番　成瀬徳夫君。

○12番（成瀬徳夫君）

これ焼却場施設は今、21年たってて、あと10年オーバーホールでやっていきたいという話があったんですけど、だけど次を作るのにはもう10年ぐらい前から計画を立てていかないと間に合わないんですよ。だから、その辺もやはりこれから行政のほうとして考えていってもらいたいなということをちょっと言ってもらいたいなと思います。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

14番　熊谷隆男君。

○14番（熊谷隆男君）

今度、壊れて、酸素何とかの補正が上がるということで、10億円ぐらいだと僕思ったけども。もっと金額をはっきり知らんだもんで、想像したよりも大きいのでびっくりしたんやけど、これ今後も起こり得ることで、今、成瀬委員が言われたように、計画を取らないかんけど、今、組合、３市で合同でというような案が出て、それに頼るようなこれ、人任せのような話で、ほかが反対してあれならどうなるのというようなところで言うと、非常に不確かなところにあって、やらなきゃいかんことは、これ確保せないかん予算が必要になってくると僕は思うわけやけど、こういうふうに唐突に、急に出て10億円要りますよと、壊れたのでということなんかが起きるということ自体が、日ごろの管理をしっかりして、早めにすることが大事で、これ電源立地交付金を使っとったわけやね、今までは。

それが大きかったと僕思うわけやけど、それがなくなっちゃったんやから、余計に神経とがらせ

て、運営状況や点検とか管理というものに力を注がないと、唐突に出たときに大きなお金がかかるというのが今後ますます増えへんかと思うので、これは管理経費なんやから、今までのとおりにやっておれば、運営していれば大丈夫という管理ではなくて、本当に点検ということの作業というのが僕は重要じゃないかなと。そうしないと、大きなことにつながっちゃえへんかなということを思うところで、お願いしたいと。Ｃ評価。

○委員長（奥村一仁君）

10番　大久保京子君。

○10番（大久保京子君）

皆さんもおっしゃってるとおりなんですけれども、私はＢ評価の81点なんですが、それは現状においては市が管理していかなければならない事業であるということ、また、広域化に関してもある意味ちょっと不透明感もあるということで、確かにこの10年先、この先10年間というのをしっかりと安全運用していかなきゃいけない事業であるということを理解しております。

ただ、先ほどからおっしゃってみえるように、やっぱりごみ削減の必要性は大なんですが、そこには市民の協力も大事なことであって、市民への周知の徹底が更に必要になってくるんではないかなと思っております。

そこで、いろんなやり方があるかと思うんですけれども、確かに市のほうは周知を広報なんかに折り込みを入れてしてますよということをおっしゃるんですけれども、従前のやり方ではなく、もっと強化的な、例えば、各地区で出前講座を行うとか、ごみの出し方とかなんですけど、そこはやっぱりしっかりと市民の方への協力を訴えていかなきゃいけないんじゃないかなと考えております。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、ご意見がないようですので、この件は閉めたいと思います。

○委員長（奥村一仁君）

それでは、もう一つだけやりたいと思います。

⑨普通河川緊急浚渫推進事業について、ご意見をいただきたいと思います。

高評価が、樋田委員の93点のＡ評価ということで、樋田委員からご意見いただきたいと思います。よろしくお願いします。

○８番（樋田翔太君）

この浚渫ですけども、経常的にやっていかないといけないことですし、つつがなく進めていく必要があると思っております。

特に近年の豪雨災害等は、ゲリラ豪雨とか、予測がなかなか難しいような災害になってきてるので、そのために常にそういったことを進めていかなければいけないということで高い評価をつけさ

せていただきました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

続きまして、低評価の熊谷委員。

○14番（熊谷隆男君）

これは、日吉はもともと、普通河川が多くて、それが水害につながったわけやけども、これがここのところ、この事業ができる頃には、ほかの川もいっぱい出てきたわけ。川の中に草が生えたりとかいうようなことで。

今はこうやって事業で浚渫に出てるけど、前は用悪水路。あれの分のやつを使ったりとかして、それでも本当になかなかやってもらえんというので、お願いしてもやってもらえないんだということがあって、この事業が終わってしまったら、ますます増えとるのに困るなという思いがあって、それで、やっぱりこの起債で起きてというところのお金のことが一番問題で、草刈りに金使うのと一緒で、全く捨てるものにお金を使わなんということで言えば、非常にお金をかけにくい事業でもあるけども、やっぱりここをしっかりやらないと災害に大きくつながるということであったりとか、その災害も大きな水が出てあふれる、そういうことにつながるわけやけども、今あるものの断面が確保できないために、ここが崩れたりというような大きな災害にもつながるということでは、大変重要ではないかなと。

また、川から取水してみえる方にとっても、これをしっかりやっていただかないと農業にも関わってくるというようなことがあって、非常に無駄金のように思えることであっても、ある程度確保を今後もしていただきたいということを思います。

そういう意味で、今の状況では、これからますますどんな川でも増えてくんやろうなということを思うので、対応していただきたいという期待を込めての点数です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ほかにご意見ある方、いかがでしょうか。

９番　渡邉康弘君。

○９番（渡邉康弘君）

私もここの気持ちでは、樋田委員が言われた高評価をつけたいところだったんですが、実際にしてこれ13ヶ所という予定で、令和６年で終了してしまうというところで、熊谷委員が言われたように、もっともっとこれが必要となってくる事業であるというところで、令和６年度には箇所を増やしてでもしっかりともっと事業に取り組んでいただきたいというところの思いも込めて、このＢ評価でやっておりますので、ぜひともこの令和６年には箇所を増やしていただきたいというところを伝えていただきたいと思っておりますので、お願いいたします。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

それでは、唯一必要性のところで５点の評価をされております柴田幸一郎委員にご意見いただければと思います。

○５番（柴田幸一郎君）

必要性５点というのは、それほど必要ですね。県が行っているし、市も行っているので、別にそんなに高く点数をしなくてもいいだろうという考え方です。

私としては、こんなにたくさん河川があるのに、13個を選んだほうが、本当にこれが必要性なのと言いたい。この13個選んだ理由が、要望がたくさん来たところとか、そういうところだけを13個上げておいて、実際には河川というのはたくさんあって、掘れとるところもあれば、そして、たまっているところも必ずあるはずです。

その一部分を無視して、要望の多いところだけをやっとる。これが目標指数が低くする理由でもあるし、必要性に対しても考えるところがあるんじゃないかなと思っております。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

12番　成瀬徳夫君。

○12番（成瀬徳夫君）

柴田幸一郎委員のこと、私も同感でございますけども、もう少し土木のほうで河川の管理をきちっとしていかないと、分からないんですよ。これ本当に浚渫した次の年に土砂が堆積することなんてあり得ることなんで、やはり河川の管理というのは必要だと思うので、河川の管理もきちっとしていってほしいということを言っていただければ、この堆積どれだけあるのか大体分かるし、それこそ河川の管理しておけば護岸なんかでも、ここ悪くなってるなということは分かると思うんで、そういう河川管理というのはちょっと今回薄いんじゃないかなということをちょっと私は感じました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

６番　三輪田幸泰君。

○６番（三輪田幸泰君）

私も成瀬委員と同じような意見なんですけれど、やはり先般の６号、７号の台風においても、私らここの中部近畿はそんなに大きな災害はなかったと認識し、東濃地方はそんなになかったと思うんですけれど、やはりあれだけ川が越流してみえたというのは、河川断面が小さいだろうというのも一つの要因として考えられますので、今回こういうふうに緊急浚渫推進事業ということで、河川にたまった堆積物を浚渫していただいて、河川断面を平時に行っていただくというのであれば、要するに異常時に機能するということですので、これもどしどしやっていただきたいと思っております。

先ほど、地元要望で優先しとるという言い方でおられたんですけど、やはり地元要望ということは、やはり皆さんそこで周りに民家があるということですので、当然それは緊急性を要することでありますので、それはイの一番にやっていただかんとあかんことやと思いますし、ましてや、私もちょっとさっき質問したんですけど、河川台帳なるものという、ちょっと抽象的な言い方をしたんですけれど、やはりそこまで把握されてないという言い方がありまして、これも膨大なというような言い方で、濁らしとったような言い方に聞こえましたので、やはり支川云々じゃなしに、大きな川というのはそれなりに名前があって、３面張りになってるとかということの履歴というのがやっぱり持っとかんことには、あそこがそれぞれ直しに行けん、あそこはたまっとるので行けというのとはまた維持管理というのは違ってくると思いますので、今後、維持管理を含めてやっていただくようにしていただくと、また全然違ってくると思いますので、よろしくお願いします。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、特にないようですので、ここで閉めたいと思います。

○委員長（奥村一仁君）

一旦、昼休憩を挟みまして、次は13時から再評価分についてご意見いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは一旦、休憩とします。

午前11時52分　休憩

午前12時58分　再開

○委員長（奥村一仁君）

皆さんおそろいですので、午前中に引き続き、事業評価の協議を始めたいと思います。

○委員長（奥村一仁君）

次に、再評価事業の①空き家等改修補助事業についてご意見をいただきたいと思います。

まず初めに、評価がＢ評価ということで良かった柴田幸一郎委員からお話を伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

○５番（柴田幸一郎君）

この評価ですが、令和３年はゼロ件だったんですけども、令和４年度は１件として、ここには書いてなかったんですが、令和５年には５件の見込みがあると、少しずつ増えてきておるというふうな感覚を持っています。

これが少しずつ少しずつ上がっていく見込みがあると思って、高い評価のＢというふうにさせていただきました。

また、この事業は、空き家の利用の促進と人口減少の抑制を目的に行われているということで、必要な事業であることからも高得点とさせていただいております。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

それでは、低評価の方、Ｄの評価の方がたくさんいらっしゃいますので、挙手でご意見ある方からお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

ありがとうございます。福永議員、お願いします。

○１番（福永泰子君）

２月の一般質問でも直接お話させていただいてるんですけれども、この空き家の事業自体に対しては、実績も増加していってるので評価できると思うんですけれども、まだ内容的に、今はバンクに登録してあるものにしか補助金が使えないということで、まちづくりが把握してる空き家物件とかのほうが結構多かったりするので、そこは法律的な問題の兼ね合いがあるということをお伺いしているので、なかなかすぐに起用するのは難しいというお話でしたが、やっぱりそう言ってる間にもう空き家というのはどんどん、使える空き家から使えない空き家に変わっていってしまうので、そこに対してもう少しスピーディーに改正等のお話を進めていっていただきたい。

あとは、今のところバンクに登録してこの空き家を利用するために、買い手への補助がほとんどであるので、もう少しバンクの登録数を増やすという意味では、売り手側のメリット等も追求して、もう少し普及をしていけるといいんじゃないかなと思ってるので、そこのところを練り込んで再考していただくといいかなと思っております。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

それでは、私もＢ評価でしたので、評価理由を少し話させていただこうと思います。

前回の評価からの改善点ということで、補助金の要件を見直したとか、ＳＮＳの活用による相談件数も増加していると。また、不動産業者との情報共有や空き家等の利活用の推進と、定住支援に向けた改善がかなり見られると考えたことから、高評価としました。

また、更に各まちづくり推進協議会や民間団体も、確か空き家等の支援を行っている団体もあったと思いますが、そういった連携などによって、今後も実績の増加が期待できるということから、改善されていると判断したためＢ評価としました。

ただ課題については、やっぱり新しく登録されていく物件から成約していくということがありますので、登録された年数がたつにつれて、どんどんやっぱり物件も劣化するということもありますので、やっぱりその補助額を登録件数に応じて、登録がどんどん入れ替えていくとことでしたけど、

登録年数に応じて補助額を変更するなどの工夫があるとより成約されていくんじゃないかなということを考えました。

以上です。

それでは、ほかにご意見ある方いかがでしょうか。

４番　棚町　潤君。

○４番（棚町　潤君）

書いてあるとおりなんですけど、私、D評価とさせてもらいましたけど、やっぱり実績がなかなか上がってこないということがD評価をつけさせてもらった理由の一つですけど、ただ、ライフルホームみたいないろんなところ、いろんな媒体へのＰＲなんかも積極的に行われていたり、改善への取り組みが大分見られたので、その辺りはちょっと、D評価は厳しいかもしれないですけど、やっぱりそういった試みをどんどんやっていってもらいたいなと思います。

そんな中で、やっぱり地域で、まちづくり協議会がいろんな取り組みをされてるということで、大湫と釜戸と日吉もやられてるんですかね。そういう中で、空き家対策も含めてやられていると思うんですけど、なかなかそれ以外の地域の動きが見えてこないので、やっぱりそういったところにも気を回していただきたいなという思いで、期待も込めてのD評価ということにさせてもらいました。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

８番　樋田翔太君。

○８番（樋田翔太君）

空き家対策をやってるまちづくりの方に事情を聞いたりしてますと、地域には空き家があって、それを把握していると。把握してるけども、空き家バンクに登録をしたがらないというか、空き家バンクを経由しなくても、そこの地域の空き家がなくなることがやっぱり主たる目的かなと思いますので、そうしますと、空き家バンクに登録すると、その地域では変な人が入ってきたら困るというところがメインかなというところで、ただ入りたい人と、地区というかそのまちも関わって決めたいけども、もう住宅サイトみたいなのに載っちゃって、ぱっと入ってきてしまうと、得体の知れない人が入ってきたらどうするんだみたいな意見が出たりするんですけど。

なので、空き家バンクじゃなくても、その地域の空き家が減ることが目的とするんであれば、バンクは必須条件じゃなくていいのかなというところです。

あと、各地区でまちづくり団体がそういった空き家に取り組むということが今後あるかもしれないんですけども、ただちょっと規模感が違い過ぎて、例えば、瑞浪地区だと１万5,000件あって、空き家数も多分結構多いんじゃないかな。

例えば、前、ハートピアの近くの火事なんか、ほとんどあれ空き家が燃えた状態で、だから空き家を空き家として把握が、まだ多分、各地区できてないんじゃないのかなというところがあるので、

これをちょっとまちづくりにやってもらうっていう評価はちょっと危険かなというふうに僕は思ってます。

できるところ、できないところがそれぞれあると思うので、各地区の事情に合わせた使いやすい補助メニューにしていくと、もっと促進されると私は思います。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

Ｂ評価の方とＤ評価の方からご意見いただいてますので、Ｃ評価の方、どなたかご意見いただけるとありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

７番　辻　正之君。

○７番（辻　正之君）

私の場合、Ｃ評価というふうにさせていただいたわけですが、人口の減少と共に、空き家あるいは空き地というのが今後増加してくると思うわけですけれども、この空き家・空き地バンクに登録されるという方が比較的少ないかなと。どちらかというと、瑞浪市のそういう不動産業者のホームページに登録されている方が多くて、空き地というのもやはりそういうところのほうが多く登録されているんじゃないかなというふうに思うわけです。

その空き家・空き地バンクに登録する登録内容が、やはり余り親切な書き方がされていないと。必要事項というか、細かいところまで、やはりデータとして記入していただいて、その記入内容を、そこを購入したいとかいう人が見て評価できるような、他の不動産業者に準ずるような規格でその情報を提供できるようにしたほうが、より空き家・空き地バンクの活用がスムーズに比較していただいて、スムーズに進むようになるんじゃないかなというふうに思いまして、いろいろな面でそういう改修の面においても、やはり入居者のニーズに応じた改修に対する補助を出していただけるような形に少しずつ考えを示していったほうがいいんじゃないかなというようなことで、今はＣ評価というふうにさせてもらいました。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

16番　柴田増三君。

○16番（柴田増三君）

私そもそもヒアリングをした立場というか、聞いて新たに評価したわけですけれども、やはり前回の評価の中からそれなりに改善というか、過年度評価から見た場合に、随分、改善策等も取ってみえたし、それから、件数もそれなりに新規登録が若干増えたり、また、この補助金を使っての活用の件数も改善されたことによって、随分増えているなという評価としましたので、Ｃ評価にさせていただきました。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、ほかにないようですので、次へ移りたいと思います。

○委員長（奥村一仁君）

次に、②空き店舗賃貸借促進奨励事業ということで、こちらも順番にご意見をいただきたいと思いますが、こちらＣ評価の方が３名おられます。高評価となっておりますが、３名のうち、どなたかご意見いただければと思いますが、よろしくお願いします。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

８番　樋田翔太君。

○８番（樋田翔太君）

Ｃ評価をいたしました。この空き店舗についてですけども、前回の事業評価のときに、やはり貸す側、借りる側双方にとって使いにくいだろうというような意見を出させていただきまして、今度ヒアリングを行いながら、これを修正していくという姿勢が見えてます。

ただ、まず実際に修正されて使いやすくなったとは言い難いですけども、事業自体の見直しをかけて動いて見えることから、余り低い評価をつけても、まだこれから動きがあるのを期待しておるところであります。

なので、このまま事業をなくしてしまってもいいんですが、でもせっかくやり始めてまだ実績もないですので、まず使い勝手を良くした状態で、需要を見て、そこから続ける続けないの議論にすればいいかと思いましたので、とりあえずＣ評価となっております。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

辻委員、三輪田委員は、よろしいでしょうか。

７番　辻　正之君。

○７番（辻　正之君）

この空き店舗賃貸促進奨励事業ですけれども、やはり今コロナによって、かなりその店舗へ入って事業を行うというような事業者の方々が減少してきているんじゃないかなということがありますので、その影響がやはり、それだけの集客ができるかどうかというようなことが、これから大きく影響してくると思うんですね。

そのためには、やっぱりこの上限10万円を３年間交付というのですけれども、これはやはりもう少し見直して、より良い条件で店舗のほうへ入っていただいて、それで事業を進めていただくというふうな形にしないと、もうどんどん廃業といいますか、事業をやめていくという方が多い中です

ので、そういうようなことを考慮した計画に少し考えていただいたほうがいいかなということで、Ｃという評価をいたしました。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

９番　渡邉康弘君。

○９番（渡邉康弘君）

この事業自体、限定的な地域に対する支援になってます。現状はそちらのニーズを把握してくださいということで前回やって、一応、実はされてる感じですけど、事業の実績とかニーズを見ても必要性を感じることができてない結果かなと思ってます。

本当に他の地域が支援がなくても空き店舗の活用が進んでる場合もあるので、この事業以外にも緊急性と公共性の高い事業があると思いますので、本当に事業の廃止を含めて再考すべきと考えています。

○委員長（奥村一仁君）

５番　柴田幸一郎君。

○５番（柴田幸一郎君）

私はこの事業の継続性を疑っております。まず、この商店街活性化を求める声は大変あるのですが、その開発エリアの住民の理解がほとんどない。例えば、飲食店だから火を使わないで欲しいとか、飲食店が来たら火を使わないで、危険だから嫌だとか、それから、２階に住んでるので、玄関口を設けてほしいとか。もうはっきり言って無理なお願いばっかりをしているとしか考えられない。

このように、再開発エリアの住民の方の理解が得られないような事業は継続性を疑っています。よって、Ｅ評価とさせていただきました。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

４番　棚町　潤君。

○４番（棚町　潤君）

先ほどからお話出てるように、柴田幸一郎委員だったり、渡邉委員がおっしゃるように、なかなかこの事業は難しくて、まずは建物を貸す状態にすることが必要なのかなというのは私は思ってまして、上に、家に住んどって、下は店舗が空いとって、それで貸してと言われても、まず貸せるような状況にしないと、やっぱり貸せないわけですよね。

なので、まずは最初に、もしかすると貸せるような状況にするための補助をする必要があるのかななんていうことをちょっと思ったりしたんです。

ただ、そこまでのことをするということになると、やっぱり各地と、ほかのエリアと大分差が出てきちゃうので、それが果たして適当かどうかという判断が必要になってくると思うんですけど、今の状況ですと、貸したいと思ってる人がおったとしても貸せる状況じゃないので、実情貸せない

ということなのかなと思ってるので、なかなかこれは継続していくのは難しい事業なんだろうなというのは思っています。

以上です。

○委員長（奥村一仁君）

14番　熊谷隆男君。

○14番（熊谷隆男君）

これ、一昨年の令和２年のときの分の評価をして、そのときも、その前のときに、もうこれはなくなるもんやと僕は思ったわけ。実績も何もなして、評価もなく、金額自体もこんなもんやということで、まだこれ続いとったことを今回再評価してくれたもんで知ったぐらいの話で、申し訳ない話が。

あのときにも議会がこぞってそういう方向の話やった。今出たような理由を言ったんやない、同じようなことを。これを全然受け止められてないということと、やっぱりそのときに、その先はやっぱり聞かないかなんだかなと。後追いのその時点のときに、決算認定をして、その次の年の秋にまた予算を上げてあるわけやから、全然何らそこのときにチェックをしなかったと、議会のほうも。

また次の年も上がってきたということなわけやから、そのときに僕覚えてるのは、質問したときに執行部のほうというか、係のほうも、実に僕も無意味なようなこと思いますくらいのこと言ったような覚えが、一応ニュアンスとしてよ。

そういう記憶があるけども、これ聞いたもんで、それいうのは違っとったよなということで、やっぱりもう最後の最後までチェックをしないとやらないなというイメージで、議会の責任を痛感した思いで、Ｄ評価からＥ評価にしました、今度は。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか

13番　榛葉利広君。

○13番（榛葉利広君）

書いてあるとおりなんですが、２年前から条件の変更が若干あったけれども、何も条件が、何も状況が好転しておりません。何でここまでこだわるのかがちょっと非常に不思議な事業です。

駅前再開発の地域が違うリノベーションエリアとかあるよね、あっちのほうが最近ちょっと古い建物を壊したり、リノベーションが進んでおるので、民間に任せるというか、そちらのほうが早いんじゃないかという気がして、駅前ができるとは言いませんけども、そういう状況が目に見えちゃっておるので、非常に疑問を感じてます。Ｅ評価でした。

○委員長（奥村一仁君）

ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、ご意見ないようですので、以上で閉めさせていただきたいと思います。

○委員長（奥村一仁君）

それでは、全ての事業評価の協議が終わりましたので、これをもちまして、令和５年第８回予算決算委員会を終了いたします。

お疲れ様でした。

午後１時22分　閉会